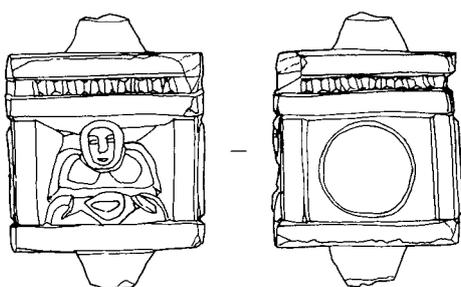


草戸千軒町遺跡調査研究報告15

草戸千軒町遺跡出土の石塔類



令和6年(2024)

広島県立歴史博物館

序

広島県立歴史博物館は、日本を代表する中世遺跡である草戸千軒町遺跡の30数年にわたる発掘調査で得られた膨大な資料を保管しています。この調査の成果は、中世の町やそこに暮らす人々の姿を明らかにするとともに、それまでの日本の中世社会に対するイメージを描き換え、新たな中世史像の構築に大きな役割を果たしてきました。こうしたことから、平成16年（2004）6月には、数十万点を超える出土資料のうち2,930点が、国の重要文化財に指定されました。

当館は、この中世の人々の生活文化を語る貴重な資料を、将来にわたって伝えるとともに、調査研究を深め、その成果を展示等で公開していくという責務を負っています。資料の調査研究については、これまでに、下駄・滑石製石鍋・木簡・木製形代・漆器・土師質土器・錢貨を取り上げるとともに、出土品の保存処理の状況と課題や備後渡辺氏の史料研究について、「草戸千軒町遺跡調査研究報告」として報告してきました。

こうした調査研究の一環として、本書では石塔類について報告します。石塔類は、昭和初期の芦田川の改修工事の際に数多く発掘され、いわば遺跡発見の端緒となった造形品です。供養や埋葬に伴うものとして中世から広く造立されています。今回、遺跡の発掘調査で出土した石塔類を悉皆的に報告することで、造形品としての具体像や町の人々の関わりや在り方などの側面に触れることができたと考えています。

なお、本書の刊行に際して御協力いただいた皆様にお礼を申し上げますとともに、本書が中世の石塔類に関する資料集として、広く活用されることを希望します。

令和6年（2024）3月

広島県立歴史博物館

目 次

序

I	はじめに	1
1	草戸千軒町遺跡の調査	1
2	石塔類の調査	2
II	出土状況	3
1	I期	3
2	II期	5
3	III期	6
4	IV期	6
5	V期前半	17
6	遺構外	18
III	石塔類の特徴	21
1	形状と材質	21
2	出土地区	25
3	木製塔婆類	27
IV	おわりに	31
付 表	草戸千軒町遺跡出土石塔類一覧表	33

図 版

挿 図

Figures (Fig.)

1-1 草戸千軒町遺跡 発掘調査区位置図 …………… 1	2-7 出土石塔類実測図3 …………… 11
2-1 時期別出土遺構 分布図1 (I期) …………… 5	2-8 出土石塔類実測図4 …………… 13
2-2 時期別出土遺構 分布図2 (II期) …………… 5	2-9 寺院地区周辺遺構図(南東側) …… 14
2-3 時期別出土遺構 分布図3 (III期) …………… 7	2-10 S X 1253 …………… 16
2-4 時期別出土遺構 分布図4 (IV期) …………… 7	2-11 S K 3425 …………… 16
2-5 出土石塔類実測図1 …………… 8	2-12 時期別出土遺構 分布図5 (V期前半) …………… 17
2-6 出土石塔類実測図2 …………… 9	2-13 出土石塔類実測図5 …………… 18
	2-14 出土石塔類実測図6 …………… 19
	3-1 草戸千軒町遺跡地区割図 …………… 26
	3-2 木製塔婆類出土遺構分布図 …… 29

表

Tables (Tab.)

1-1 草戸千軒町遺跡の時期区分 …………… 2	3-1 地区別出土状況一覧 …………… 26
2-1 遺構別出土状況一覧 …………… 3・4	3-2 出土板塔婆一覧 …………… 28
2-2 包含層等出土状況一覧 …………… 20	3-3 出土柱状塔婆一覧 …………… 28

図 版

Plates (PL.)

1 一石五輪塔・五輪塔 1	3 五輪塔 3
2 五輪塔 2	4 相輪・宝篋印塔・層塔

例 言

- 1 本書は、広島県立歴史博物館が整理・調査・研究を進めている草戸千軒町遺跡に関わる資料の研究報告（草戸千軒町遺跡調査研究報告）の第15冊である。
- 2 本書は、尾崎光伸（主任学芸員）・下津間康夫（学芸員〔～令和4年度〕）が協議して執筆・編集をした。
- 3 石塔類の整理に際しては、以下の広島県立歴史博物館考古資料整理ボランティアの協力を得た。

有田俊範、石口由紀男、柿原俊子、川本功、篠原芳秀、高橋真由美、高橋光子、松木伸江、御堂溪（五十音、敬称略）
- 4 本書に掲載した出土資料ならびに関連する図面・写真などについては、広島県立歴史博物館で保管している。
- 5 本書に使用した遺構の略号は次のとおりである。

S A－柵、S B－建物、S C－道路、S D－溝、S E－井戸、S G－池、S K－土坑、S X－その他の遺構
- 6 草戸千軒町遺跡の発掘調査の経緯と成果については、以下の報告書を参照していただきたい。

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編・広島県教育委員会発行
『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅰ－北部地域北半部の調査－』1993年
『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ－北部地域南半部の調査－』1994年
『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅲ－南部地域北半部の調査－』1995年
『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅳ－南部地域南半部の調査－』1995年
『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅴ－中世瀬戸内の集落遺跡－』1996年
- 7 石材の名称のうち「凝灰角礫岩」については、上記報告書等では「角礫凝灰岩」と表記してきたが、次の文献に従い、本書では「凝灰角礫岩」とした。

久野久『岩波全書 火山及び火山岩』第2版 岩波書店 1976年
横山泉・荒巻重雄・中村一明編『岩波講座 地球科学7』岩波書店 1979年

I はじめに

1 草戸千軒町遺跡の調査 (Fig 1 - 1)

草戸千軒町遺跡は、広島県福山市草戸町に所在し、備後南部（広島県東南部）第一の河川である芦田川が瀬戸内海に注ぎ出る河口付近に成立した中世の集落遺跡である。遺跡は昭和5年（1930）前後に実施された芦田川河川改修工事に伴い発見され、濱本鶴賓・光藤珠夫氏らにより、江戸時代中期にまとめられた地誌『備陽六郡志』に記される「草戸千軒」の跡であることが明らかにされた¹⁾。しかし、本格的な調査が実施されるまでには至らず、遺跡は改修後の芦田川の流路に埋もれてしまった。

最初の本格的な発掘調査は、昭和36年（1961）に福山市教育委員会が実施し、その後、福山市教育委員会・広島県教育委員会により調査が進められた。昭和48年（1973）には広島県教育委員会により調査機関（「草戸千軒町遺跡調査所」、後に「草戸千軒町遺跡調査研究所」）が設置され、大規模に調査を行うことになった。これは、建設省（当時）による芦田川の河川整備事業の一環として、遺跡包蔵中州が掘削されることに対応するためであった。中州部分についての調査は平成6年（1994）に終了²⁾し、発掘調査の経緯と成果については、平成5年（1993）から平成8年（1996）に刊行した5冊の『草戸千軒町遺跡発掘調査報告』にまとめられた。この間に、草戸千軒町遺跡の発掘調査は、全国各地で中世遺跡の発掘調査が実施されるきっかけとなり、中世史研究に考古学研究が重要な役割を果たすことを明らかにした。なお、草戸千軒町遺跡の性格については、鎌倉時代から戦国時代初期（13世紀中頃から16世紀初頭）にかけて、「津」・「市」の機能を中心に、芦田川下流域を中心とする地域の流通・交通の一拠点であったことが明らかになった。

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所は、この報告書刊行事業の完了をもって平成8年（1996）3月に閉所となったが、出土遺物をはじめとする遺跡に関わる膨大な資料は、広島県立歴史博物館が受け継ぎ、その保管とともに、出土遺物の全体像の解明をはじめとする調査研究、そして、公開・活用などの事業を推進している。

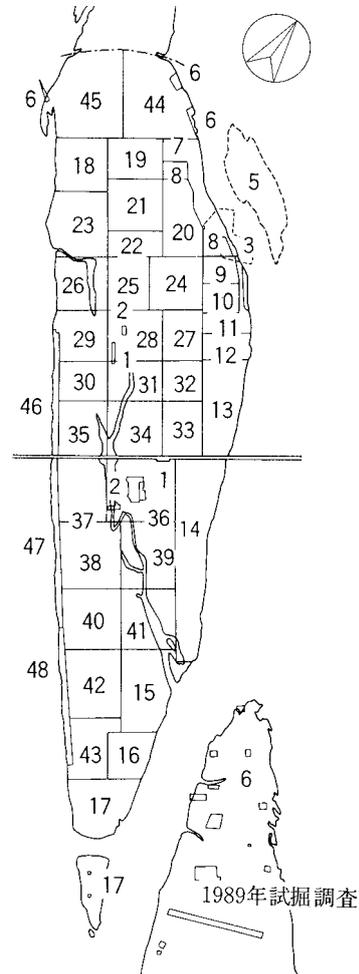


Fig. 1 - 1 草戸千軒町遺跡発掘調査区位置図

1) 濱本鶴賓「明王院と草戸中洲の変遷(一)~(九)」『備後史談』第12巻第6号~第13巻第2号、1936~1937年。

光藤珠夫「草戸の庄の古陶磁」『備後史談』第14巻第3号、1938年。

2) 平成7年（1995）に福山市教育委員会が遺跡包蔵中洲の東側の高水敷の発掘調査を実施した。『草戸千軒町遺跡法音寺橋改築工事に伴う発掘調査報告書』福山市教育委員会、1997年。

2 石塔類の調査

草戸千軒町遺跡の出土遺物は数十万点に及び、土器・陶磁器・木製品・石製品・金属製品・繊維製品など多様な材質の製品を含んでいる。これらは、中世の生活文化のさまざまな側面に及んでおり、中世の町の姿や人々の生活の実態を明らかにする上で、その学術的価値は極めて高いものになっている。

今回報告する石塔類については、芦田川河川改修工事に際して昭和5年(1930)1月に出土し³⁾、いわば遺跡発見の端緒となった造形物である。この時に出土した石塔類は、遺跡の西側にある明王院境内へ移され⁴⁾、昭和35年(1960)に福山市重要文化財に指定されている。

その後、遺跡の発掘調査で出土した石塔類については、各年次の発掘調査概要で種別・部位の

確認と遺構・層位別の点数に触れ、『草戸千軒町遺跡発掘調査報告』であらためて出土品の概要や特徴などを報告している。そして、墓遺構と石塔類や木製塔婆類の様相などから、墓の形態や墓地の変遷が言及⁵⁾されている。また、発掘調査の途上段階ではあるが、特に五輪塔の特徴に言及⁶⁾したのものもある。

今回、石塔類の整理にあたっては、種別・部位、石材、寸法の確認を実施した。石塔の認定については形状や石の材質から判断したが、残存状況により断定にまで至らないものや可能性のあるものについては、次のように分類した。

「石塔か」－種類・部位までは断定できないが石塔と見受けられるもの

「石塔片か」－「石塔か」に比して残存の割合が低い石塔の可能性のあるもの

「石塔片か(小片)」－残存部位の長辺が10cmに満たないが石塔の可能性が否定できないもの

また、各個体について整理番号を付与したが、小片については、同一の遺構・地区(2m四方の小グリッド)・層位・調査日の出土品は同一の整理番号とし、計数の際には1点とした。

以下、あらためて遺跡全体の出土状況について、時期を追いながら整理するとともに、個別の遺構にも触れる。なお、本書の各種データについては、令和6年(2024)1月段階の整理作業の結果に基づいており、例えば個体の出土遺構や石材の名称など既往の報告から変更したものもある。

Tab. 1-1 草戸千軒町遺跡の時期区分

時 期	年 代
前I期	平安時代
I期	13世紀中頃から14世紀初頭
前半	13世紀中頃から後半
後半	13世紀後半から14世紀初頭
II期	14世紀代
前半	14世紀前半
後半	14世紀中頃
III期	15世紀前半から中頃
IV期	15世紀後半から16世紀初頭
前半	15世紀後半
後半	15世紀末から16世紀初頭
V期	16世紀前半から20世紀前半
前半	16世紀前半から17世紀中頃
後半	17世紀後半から20世紀前半
VI期	20世紀前半以降

3) 石塔類の発見の状況については、『草戸千軒町遺跡 遺跡編』(福山市教育委員会、1965年)で述べられている。

4) 明王院境内に移された石塔類については、次の報告で整理されている。

古西武彦「墓石群」『草戸千軒町遺跡 遺物編』福山市教育委員会、1966年。

5) 福島政文「墓の展開と変遷」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告V』広島県教育委員会、1996年。

6) 田邊英男「草戸千軒町遺跡出土の石塔類－五輪塔を中心として－」『草戸千軒』No.145、広島県草戸千軒町遺跡調査研究所、1985年。

II 出土状況

以下、時期別に出土状況を確認する。

なお、草戸千軒町遺跡では、遺跡包蔵中洲中央北寄りの場所に、集落の成立段階から中心的な地区が成立し、I期からIII期までを中心区画、IV期を柵囲区画と呼んでいる。

I I 期 (Fig. 2-1、Tab. 2-1)

出土概要

I期では、3か所の遺構に小片が見られるに過ぎない。S D 2022は中心区画の西側、S K 2345・S G 2741は中心区画内の南側にある。

S D 2022 (第29次調査)

S D 2022は、石積遺構のS X 2020の周溝である。S X 2020は、一辺が4.3mの方形の盛土の斜面に3段に人頭大の石を積んだ墳丘を持ち、高さが0.7m残っていた。石積墳墓に類似するが埋葬施設が確認できず、供養塔の可能性もある。S D 2022は、幅3.0~4.5m、深さ0.4~0.7mを検出した。I期前半に築造され、I期後半まで継続している。

溝内からは、土師質土器の完形品や備前・常滑・東播系須恵器・中国産陶磁器など多数の土器をはじめ、箸状木製品・漆器・下駄・草履状木製品・柄・毬などの木製品、刀子、錐、木の葉形鋸、手摺錘、釘、石鍋、砥石、石硯、骨角製筭・根付などが出土している。小片はS X 2020に伴うものだった可能性もある。

Tab. 2-1 遺構別出土状況一覧 (1)

時 期	遺 構 番 号	種 別 ・ 部 位 ・ 数 量
I 期前半~I 期後半	S D 2022	小片 3
I 期	S K 2345	小片 1
I 期後半	S G 2741	小片 2
II 期前半	S D 2440	小片 1
II 期	S K 3010	石塔か 1
II 期後半	S D 520	石塔か 1
	S E 1995・1996 掘形	石塔片か 1
	S K 2118	石塔片か 1
	S G 2740 下層	五輪塔火輪 1
III 期	S K 3082	石塔片か 1
	S G 2810 掘形 S K 2910	石塔片か 1 五輪塔水輪 1
III 期~IV 期前半	S D 510	五輪塔地輪 1
IV 期前半	S G 2810 下層	石塔片か 1 小片 2
IV 期	S X 1253	五輪塔地輪 1
	S K 3425	五輪塔火輪 1
	S X 4909 * 1	五輪塔空風輪 1

Tab. 2-1 遺構別出土状況一覧(2)

時期	遺構番号	種別・部位・数量
IV期後半	S D 585	五輪塔火輪 1
	S X 588	五輪塔空風輪 2・火輪 2・地輪 1
	S X 600	五輪塔火輪 1
	S X 615	五輪塔空風輪 7・風輪 1・火輪 3・水輪 4・地輪 1 層塔塔身 1・笠 1 宝篋印塔基礎 1・塔身 1 相輪 1
	S D 635	五輪塔空風輪 1・火輪 3・地輪 1 一石五輪塔 1 石塔か 5 石塔片か 1 小片 5
	S X 3040 * 2	五輪塔空風輪 2 一石五輪塔 1 石塔か 2
	S X 3041 * 3	五輪塔風輪 1 地輪 3
	S E 1150	五輪塔地輪 1
	S E 2721	五輪塔火輪 1
	S G 2810 中層	五輪塔空輪 1 火輪 1 地輪 1 小片 1
	S X 2811 * 4	五輪塔空風輪 1・風輪 1・火輪 2・水輪 2・地輪 3 宝篋印塔塔身 1・笠 1 相輪 2 石塔か 21 石塔片か 9 小片 11
	S D 3130	五輪塔火輪 1
	S A 3135	小片 1
II期後半～IV期後半	S G 3060	五輪塔空輪 2・空風輪 4・火輪 4・水輪 5・地輪 1 宝篋印塔塔身 2 石塔か 5 石塔片か 2 小片 2
	S X 3065 * 5	五輪塔水輪 1
V期前半	S G 030	小片 1
	S G 640	五輪塔空風輪 3・風輪 1・火輪 1・水輪 1 宝篋印塔笠 1 石塔か 2 石塔片か 1
	S X 636 * 6	五輪塔火輪 1
	S X 3032 * 7	五輪塔火輪 1・水輪 1 石塔か 3 石塔片か 1
	S D 1831	五輪塔空風輪 1
	S G 3050	五輪塔水輪 1・地輪 1 石塔か 1
	S X 3051 * 8	石塔か 3
	S G 3420	五輪塔空風輪 1
	S E 4880	五輪塔火輪 1・地輪 1

※ 「石塔片か(小片)」については「小片」と表記した。数量について、「小片」となったもので同一の遺構・小地区・層位・調査日のものは1点として計数した。また、遺構については出土地点として推定されるものも含めた。

*1 S X 4909は、S G 4900の護岸石積。

*2・3 S X 3040・S X 3041は、S D 635内礫群。

*4 S X 2811は、S G 2810上層内礫群。

*5 S X 3065は、S G 3060内礫群。

*6・7 S X 636・S X 3032は、S G 640内礫群。

*8 S X 3051は、S G 3050の護岸石積。

このほか、S D 635もしくはS G 640からの出土品(一石五輪塔 1)、S K 2112(V期前半)もしくはS E 2114(IV期後半～V期前半)からの出土品(石塔か 1)がある。

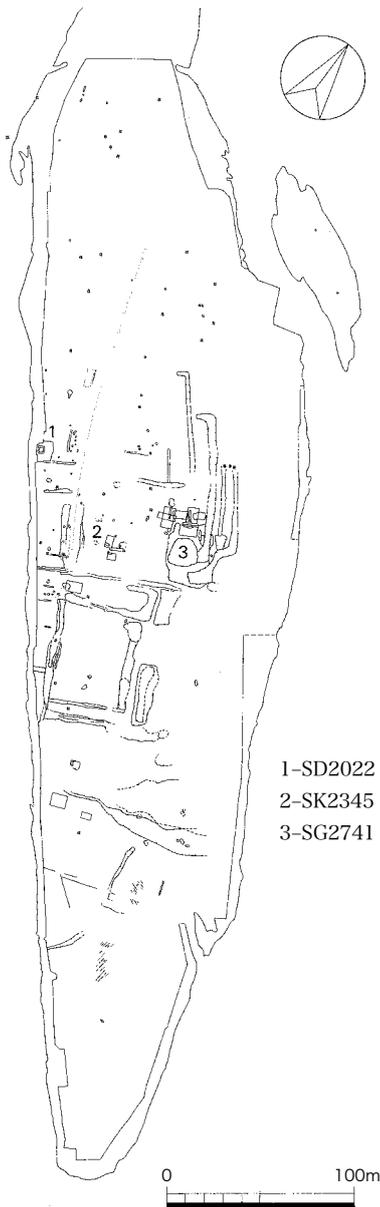


Fig. 2-1 時期別出土遺構分布図1 (I期)

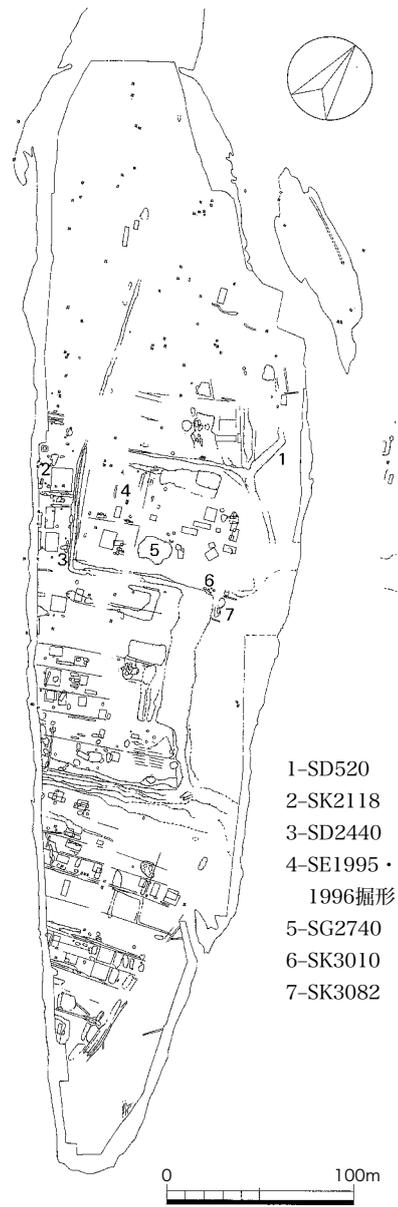


Fig. 2-2 時期別出土遺構分布図2 (II期)

2 II期 (Fig. 2-2、Tab. 2-1)

出土概要

II期では、7か所の遺構から出土している。S D520は中心区画内の東側にあつて芦田川や瀬戸内海に繋がる水路網の一環をなす。S E1995・1996掘形とS G2740は中心区画内の南側、S D2440は中心区画の南西端、S K3010・S K3082は中心区画の南東端及びこれに接する場所にある。S K2118は中心区画の西側にあり、S D2022の南側2 mに位置する。種別・部位が明らかなものがS G2740下層から出土している。

SG2740 (第31・34次調査 Fig. 2-5)

径13~18m、深さ1.3mほどの池。内部の堆積は3層に分かれ、上層はIV期前半、中・下層はII期後半になる。下層は池として滞水していた際の堆積層、中層は埋立層、上層は時間を挟んだ最終的な埋立層と想定される。石塔は下層に含まれる。粘土層が厚く堆積しており、多種多量の木製品が出土している。信仰・呪術・遊戯に関わるものが目立ち、人形、舟形、刀形、陽物、毬杖、毬、羽子板状木製品、板塔婆などがある。この他、土師質土器や土錘、石鍋、砥石なども出土している。

1は五輪塔火輪で流紋岩質凝灰岩製。破片となっているが、菩提門(西方)火輪を表す「卍」を陰刻しており、墨が残る

3 III期 (Fig. 2-3、Tab. 2-1)

出土概要

SG2810は中心区画内の南東側にあつて、この時期に整備される寺院の内部にある蓮池と推定される。SK2910もこの寺院地区にあり、SG2810の東側10mに位置する。SD510はSD520を掘り直したもので、同じく中心区画内の東側にあつて芦田川や瀬戸内海に繋がる水路網の一環をなす。

SK2910 (第32次調査 Fig. 2-5)

径5~7m、深さ0.5mの不整形土坑。土師質土器、瓦質土器、瓦器火鉢、箸状木製品、漆器などが出土している。

2は五輪塔水輪で凝灰角礫岩製。柄がなく上・下面を浅く窪ませている。径24cm台、高さ18cm⁷⁾台。

4 IV期 (Fig. 2-4、Tab. 2-1)

出土概要

III期までの出土数が少量であったのに対し、IV期に集中的に出土しており、特にIV期後半に多い。柵田区画内の南東側の寺院地区とその周辺からの出土が目立つ。寺院地区にはSE2721・SG2810、その周辺にはSD585・SX588・SX600・SX615・SD635・SG3060・SD3130がある。また、中心区画内の南側にSA3135、区画外の北側にSX4909(SG4900)、西側にSE1150・SX1253、南側にSK3425がある。

寺院地区

SG2810 (第32・33次調査 Fig. 2-6)

寺院の内部にある蓮池と推定され、東西8m、南北12m、深さ1.2mほどで、北・東・南に護岸石組がある。築造はIII期で、遺構内の中・下層の埋没がIV期前半、上層の埋没がIV期後半である。SX2811は上層内の礫群で、破損したものや小片となった石塔が相当数含まれる。各層に土師質土器、備前・常滑などの土器類が含まれると共に、下層から折敷・箸状木製品・漆器・下駄・毬・柿経、石鍋・石臼、小柄、中層から箸状木製品・漆器・下駄・毬、石鍋・砥石、上層から砥石・硯、刀子などが出土している。また焼かれた人骨片が各層に相当数含まれる。

9は五輪塔空輪で流紋岩質凝灰岩製。径17cm台、高さ13cm台。

7) 各個体の高さに関して、柄の部分は除外した。

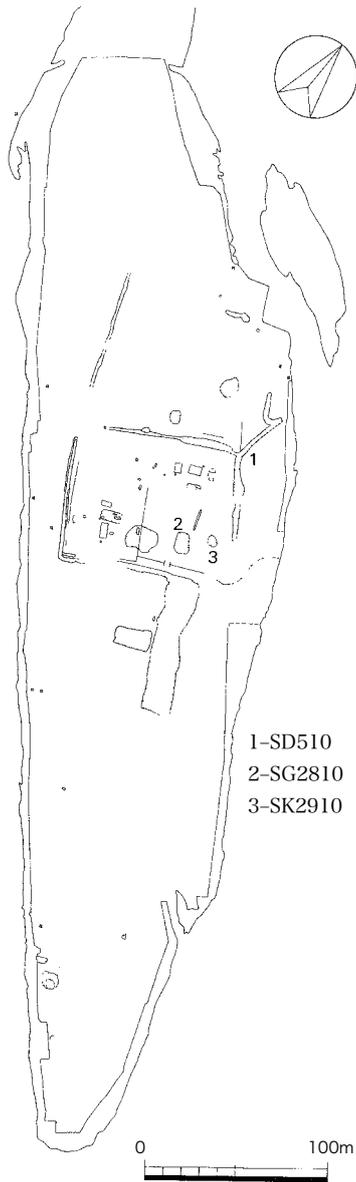


Fig. 2-3 時期別出土遺構分布図3 (III期)

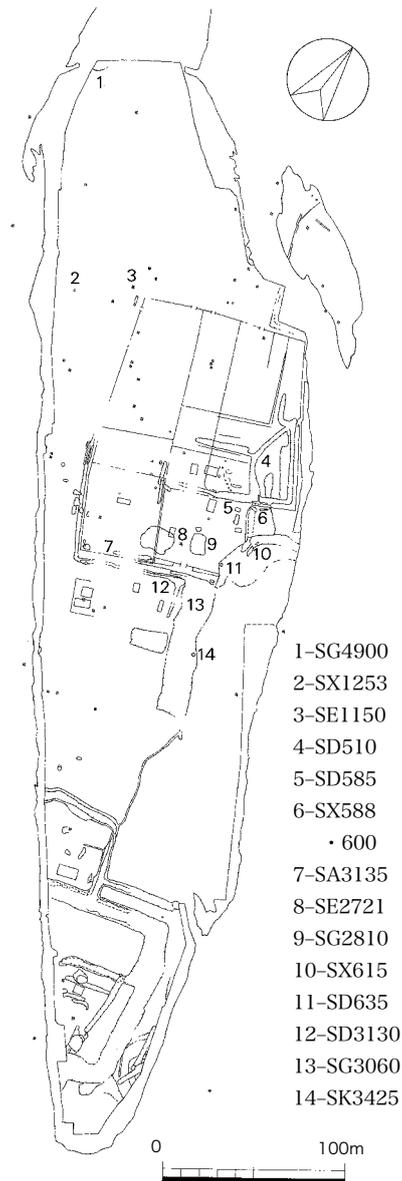


Fig. 2-4 時期別出土遺構分布図4 (IV期)

10は五輪塔空風輪で花崗岩製。下面に柄がある。空輪径18cm台、風輪径19cm台、高さ24cm台で幅広の形状である。

11は五輪塔火輪で流紋岩質凝灰岩製。上・下面に柄穴がある。復元すると幅は40cmを超える大型品になる。

12は相輪で花崗岩製。宝珠と請花の部分である。宝珠径12cm台、請花径15cm台。

13は相輪で花崗岩製。覆鉢と露盤の部分である。露盤は四方に格狭間が彫られ、下面に柄がある。覆鉢径14cm台、露盤幅16cm台で、大型品に見受けられる。

14は宝篋印塔笠で凝灰角礫岩製。屋根は5段で隅飾突起を欠き、上・下面に柄穴がある。幅23cm台、高さ17cm台。

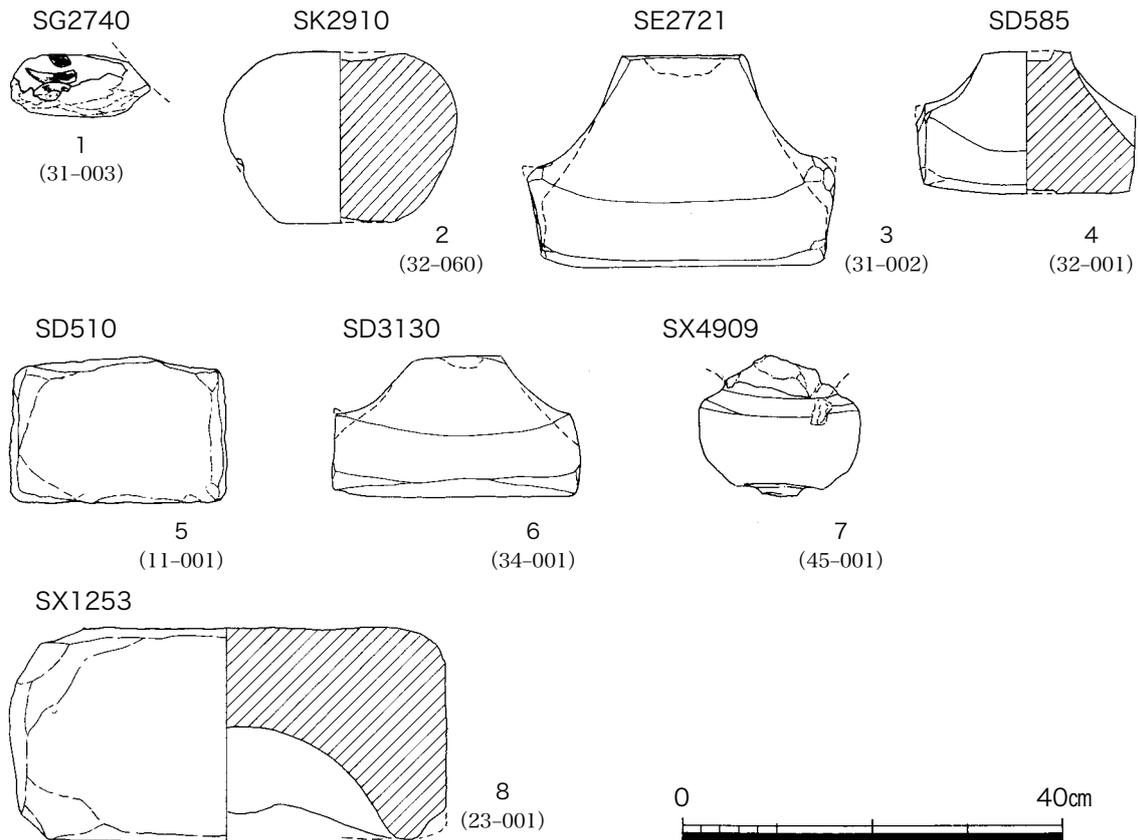


Fig. 2-5 出土石塔類実測図1 通し番号と共に整理番号(付表参照)には()を付した。以下同じ。

SE2721 (第31次調査 Fig. 2-5)

SG2810の西側4mに位置しており、上部は石組方形、下部は木組方形縦板組横棧型の井戸。木組井側は一辺0.75mの上段と0.7~0.75mの下段が重なる。石組井側は内径0.9mで、木組井側を補修したものである。井側内の上部には石や礫が多く見られ、井戸の廃絶に際して投げ込まれたもので、この中に石塔がある。他には、土師質土器、備前・亀山・常滑、中国産磁器、朝鮮産陶器、小柄・切羽などが出土している。

3は五輪塔火輪で花崗岩製。上面に柄穴があり、軒の反りが顕著。幅32cm台、高さ22cm台で大型品の部類になる。

寺院地区の周辺

SD585 (第27・32次調査 Fig. 2-5)

SG2810の北側20mにある全長38m以上、幅2~5mの東西溝。土師質土器、備前・亀山・常滑・瀬戸、中国産磁器、朝鮮産陶器、箸状木製品・漆器・下駄・陽物、土製人物像頭部、銅製懸仏、石鍋・砥石などが出土している。

4は五輪塔火輪で花崗岩製。上・下面に柄穴があり、軒の反りが顕著。幅23cm台、高さ15cm台。

SX600 (第13・32次調査 Fig. 2-6)・SX588 (第13次調査 Fig. 2-6)

寺院地区の東側には、芦田川や瀬戸内海に繋がる水路が到達し、さらに柵囲区画内の東側に延びる水路網が整備されていた。SX600はこの水路を遮断する突堤状の施設で、土を積んで周りを石組で固めている。SX588も突堤状の石積で、SX600と接続している。この石積の石材として五輪塔が5点用いられている。

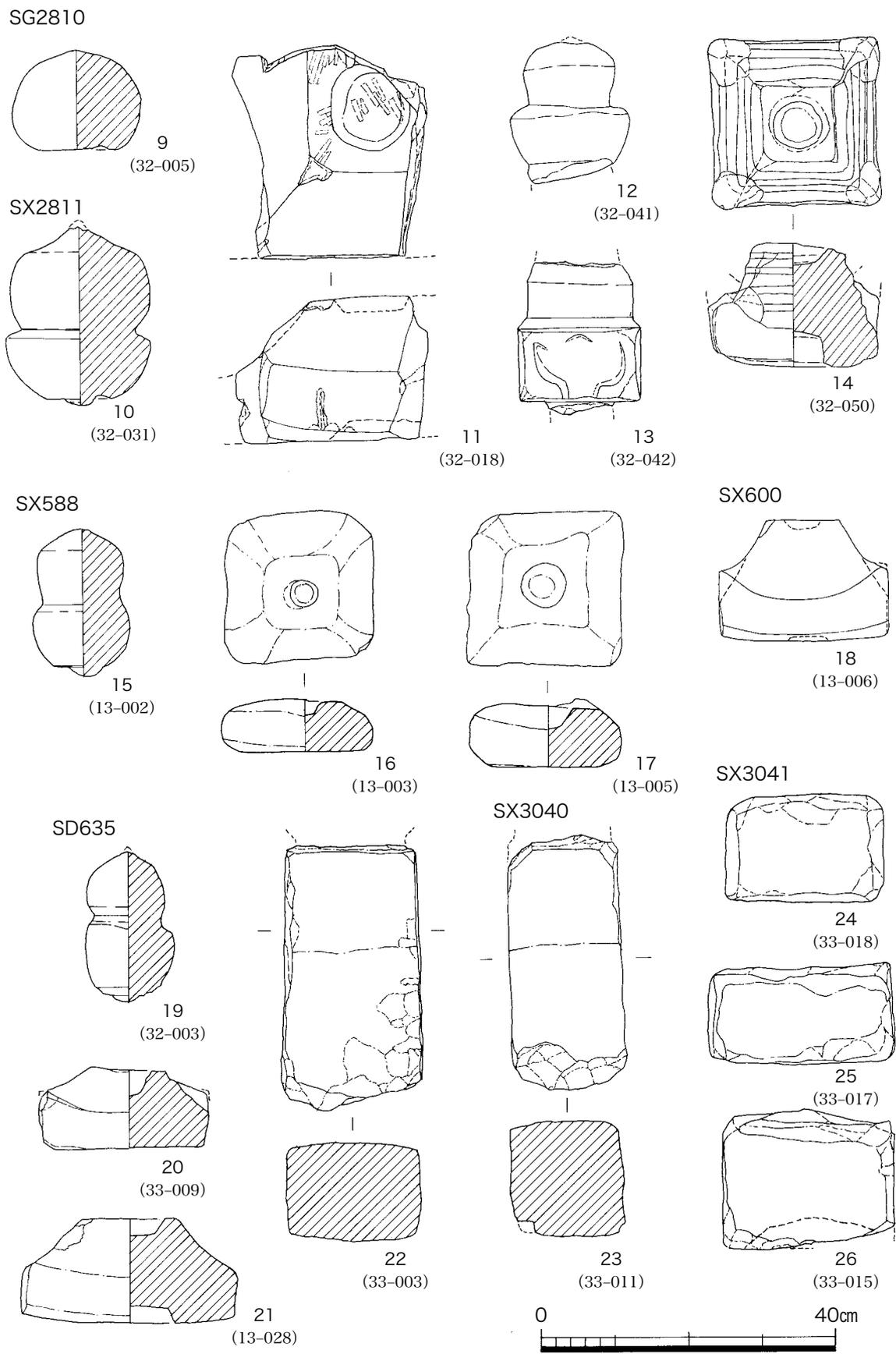


Fig. 2-6 出土石塔類実測図2

15～17がS X588、18がS X600の出土である。

15は五輪塔空風輪で凝灰角礫岩製。下面に柄がある。空輪径11cm台、風輪径13cm台。

16は五輪塔火輪で凝灰角礫岩製。幅20cm台、高さ8cm台で扁平な形状である。

17は五輪塔火輪で凝灰角礫岩製。幅21cm台、高さ9cm台で扁平な形状である。

18は五輪塔火輪で花崗岩製。上・下面に柄穴があり軒の反りが顕著。幅23cm台、高さ16cm台。

SD510 (第11・12次調査 Fig. 2-5)

柵囲区画内の東側にある水路網の一つで、幅2.5～3m、全長50mを超える斜行・南北溝。土師質土器、備前・亀山・常滑・瀬戸、中国産磁器、朝鮮産磁器、折敷・箸状木製品・漆器・下駄・草履状木製品・堅櫛・木筒・木札などが出土している。Ⅲ期からⅣ期前半にかけて水路として機能した後に、S X600によって南側の水路と遮断されてしまう。

5は五輪塔地輪で凝灰角礫岩製。幅24cm台、高さ15cm台。

SX615 (第13次調査 Fig. 2-7)

水路を遮断した突堤状の石組で、S X600の南側15mに位置する。S D635を堰き止めたもので、溝の幅6mについて石組をしている。しかし、Ⅴ期前半に築造された池(S G640)やこれから延びる溝によって上部を壊されており、径7mほどに石が散乱している。この中に、五輪塔・層塔・宝篋印塔など21点を確認した。

27は五輪塔空風輪で花崗岩製。下面に柄がある。空輪径13cm台、風輪径14cm台、高さ21cm台。

28は五輪塔空風輪で花崗岩製。下面に柄がある。空輪径13cm台、風輪径14cm台、高さ19cm台。

29は五輪塔空風輪で花崗岩製。下面に柄がある。空輪径14cm台、風輪径15cm台、高さ21cm台。

30は五輪塔空風輪で花崗岩製。下面に柄がある。空輪径11cm台、風輪径11cm台、高さ16cm台。

31は五輪塔空風輪で凝灰角礫岩製。下面に柄がある。空輪径16cm台、風輪径17cm台、高さ23cm台でやや幅広に見受けられる。

32は五輪塔風輪で凝灰角礫岩製。上面に柄穴がある。径18cm台、高さ9cm台。

33は五輪塔火輪で結晶質石灰岩製。上面に柄穴がある。幅14cm台、高さ6cm台で小型品である。

34は五輪塔水輪で流紋岩質凝灰岩製。径30cm台、幅18cm台で扁平な形状である。

35は五輪塔水輪で凝灰角礫岩製。径22cm台、高さ18cm台。

36は五輪塔空風輪で凝灰角礫岩製。下面に柄がある。空輪径13cm台、風輪径15cm台、高さ21cm台。

37は五輪塔火輪で凝灰角礫岩製。上面に柄穴がある。幅24cm台、高さ11cm台。

38は五輪塔水輪で凝灰角礫岩製。径20cm台、高さ15cm台。

39は五輪塔地輪で凝灰角礫岩製。幅24cm台、高さ15cm台。

36～39はセットになる五輪塔で、全体の高さは65cmほどになる。石組に使用されており、同一の地区(2m四方の小グリッド)から出土している。

40は相輪で花崗岩製。覆鉢と露盤部分で下面に柄の部分がある。上部の九輪以上は失われている。露盤は側面の4面に格狭間を配している。覆鉢径16cm台、露盤幅は18cm台で、大型品に見受けられる。

41は宝篋印塔塔身で凝灰角礫岩製。各側面の上部に連子状の帯を巡らせ、4面の内の1面に仏像、3面に円形を配した緻密な細工が施されている。上・下面に柄がある。幅19cm台、高さ27cm台。

42は宝篋印塔基礎で凝灰角礫岩製。上部を2段に削り出し、側面の3面に格狭間を配している。上面に柄穴、下面に削り込みがある。幅25cm台、高さ22cm台。

41・42はセットになる宝篋印塔で、隣接する地区から出土している。

SX615

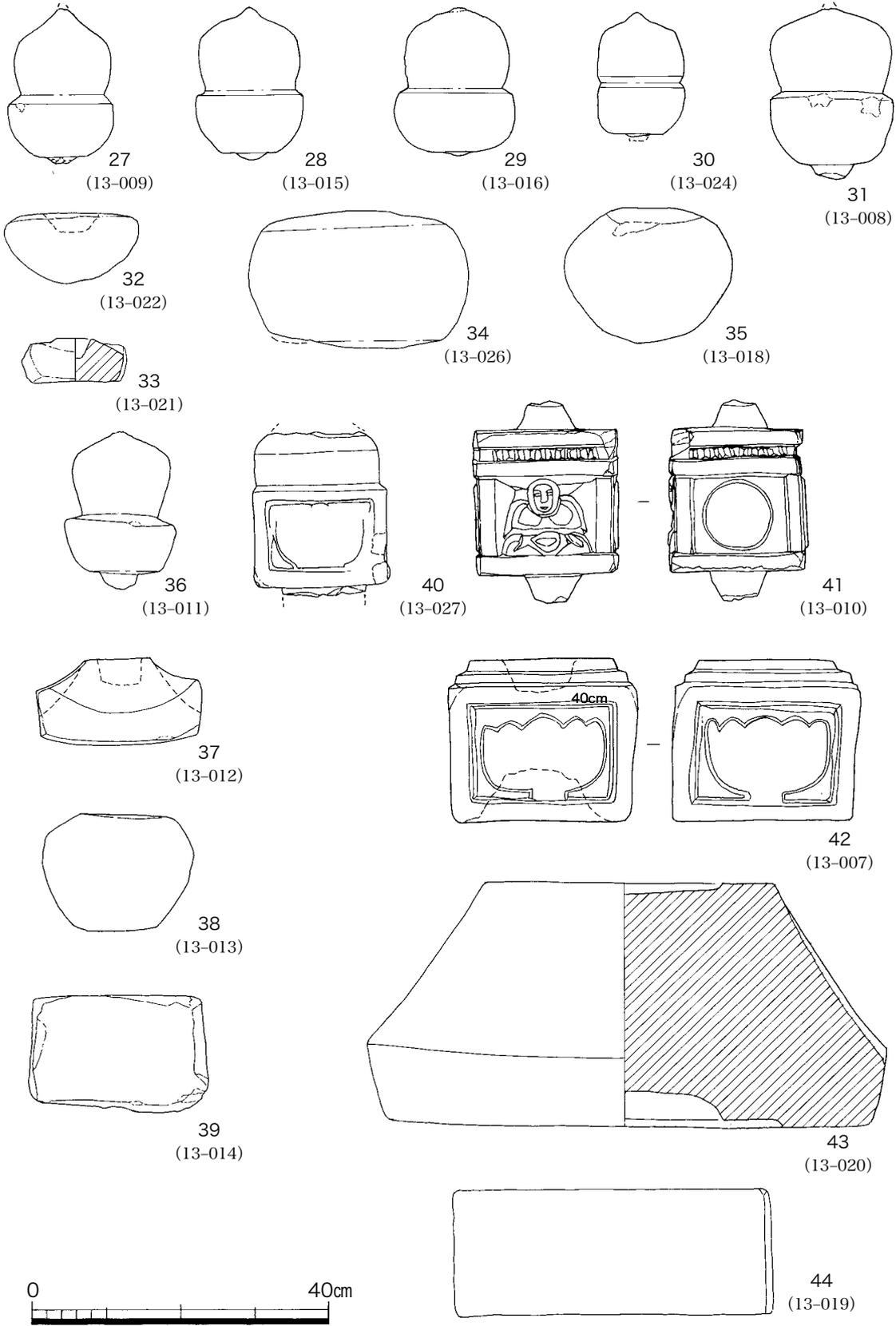


Fig. 2-7 出土石塔類実測図3

43は層塔笠で流紋岩質凝灰岩製。上・下面に割り込みがあり、下面の割り込みは2段になっている。幅75cm台、高さ33cm台で大型品である。軒にはほとんど反りが見られない。

44は層塔塔身で流紋岩質凝灰岩製。幅43cm台、高さ17cm台の大型品である。

43・44はセットになる層塔で、2点の高さは50cmほどになる。石組に使用されており、同一の地区から出土している。

S D635 (第13・32・33次調査 Fig. 2-6)

寺院地区の東側には、芦田川や瀬戸内海に繋がる水路が到達しており、S D635は改修した最新段階のもの。全長55m以上、幅5～6mの東西・斜行溝で、S X615により堰き止められる。土師質土器、備前・亀山・常滑、銅製磬、折敷・箸状木製品・漆器・下駄・草履状木製品や板塔婆・柿経などが出土している。なお、S X3040・S X3041はS D635内の礫群である。石塔には五輪塔11点、一石五輪塔2点などがある。

19は五輪塔空風輪で凝灰角礫岩製。下面に柄がある。空輪径11cm台、風輪径13cm台、高さ20cm台で細身の形状である。

20は五輪塔火輪で凝灰角礫岩製。上面に柄穴がある。幅23cm台、高さ11cm台で扁平な形状である。

21は五輪塔火輪で流紋岩質凝灰岩製。上面に柄穴がある。幅29cm台、高さ14cm台。

22は一石五輪塔で花崗岩製。地輪部から埋め込み部で、上部に水輪部がわずかに残る。表面に地上部分と地中部分の差異を確認できる。幅は長辺19cm台、短辺13cm台で、横断面は長方形である。

23は一石五輪塔で花崗岩製。地輪部から埋め込み部で、表面に地上部分と地中部分の差異を確認できる。幅は長辺16cm台、短辺15cm台で、横断面はほぼ正方形である。

24は五輪塔地輪で凝灰角礫岩製。幅21cm台、高さ15cm台。

25は五輪塔地輪で凝灰角礫岩製。幅25cm台、高さ13cm台で扁平な形状である。

26は五輪塔地輪で凝灰角礫岩製。下面に割り込みがある。幅23cm台、高さ19cm台で厚みのある形状である。

S G3060 (第33・34・36次調査 Fig. 2-8)

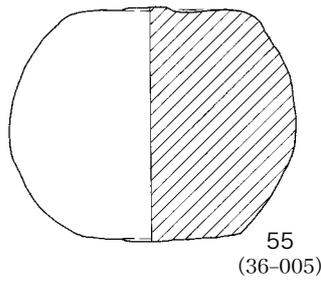
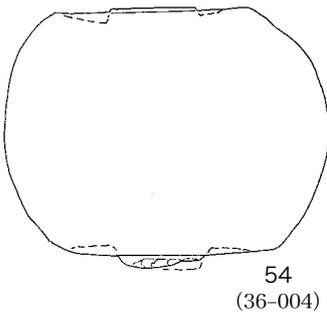
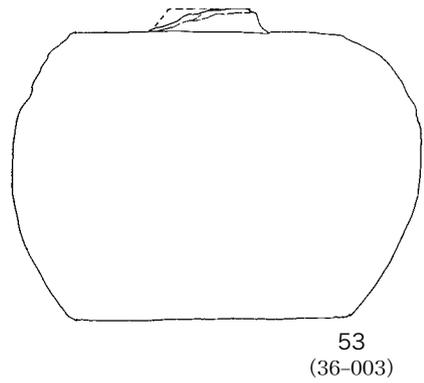
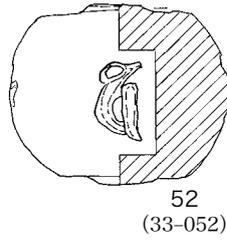
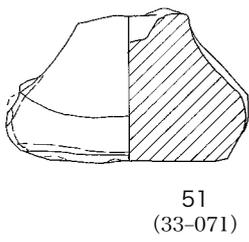
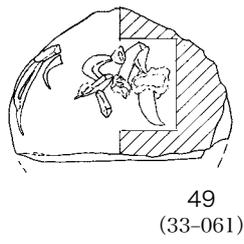
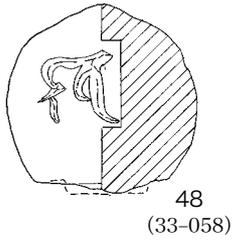
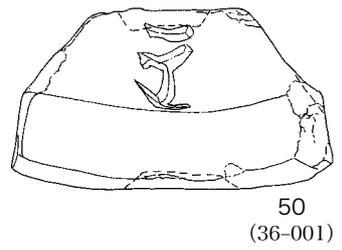
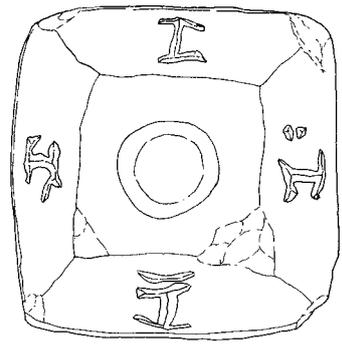
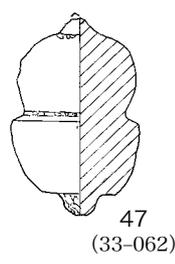
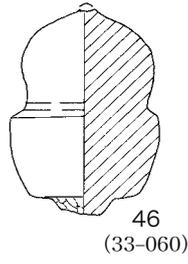
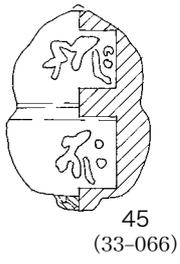
東西約15m、南北約75mの大規模な池。上部から近年の流路が深くえぐったり、近世の池が掘り込まれたりしていた。I期前半からII期後半にかけて、遺跡包蔵中洲の南部に芦田川や瀬戸内海に繋がる水路網が整備され、S G3060はその一環をなすものでII期後半に築造され、中心区画の南側に接する場所まで延びている。III期からはこの南部の水路網は消滅するが、S G3060は集落の区画施設としてIV期後半まで機能し、一部はV期前半まで施設として継続している。

各次調査とも、堆積土層の確認から共に上・中・下3層に分けて掘り下げており、出土遺物の様相は、第36次調査の下層がII期後半、第36次調査の上層がIV期後半からV期前半になるが、他の層位についてはII期後半からIV期後半が混在している。土師質土器、備前・亀山・常滑・瀬戸、中国産磁器、折敷・箸状木製品・漆器・下駄・草履状木製品・扇・火鑽板・燈明台・板塔婆・柱状塔婆、砥石・石硯などが出土している。石塔はII期後半からIV期後半が混在する層位からの出土で、S X3065はS G3060内の礫群である。遺跡全体で石塔類は大部分がIV期以降に出土しており、S G3060についてはIV期の中で報告する。五輪塔15点、宝篋印塔2点などがある。

45は五輪塔空風輪で花崗岩製。下面に柄がある。空風輪の四方を表す梵字「**𑖀𑖄𑖀𑖄**」・「**𑖀𑖄𑖀𑖄**」を陰刻している。空輪径13cm台、風輪径15cm台、高さ21cm台。

46は五輪塔空風輪で花崗岩製。下面に柄がある。空輪径14cm台、風輪径16cm台、高さ21cm台。

SG3060



SX3065

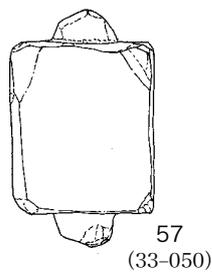
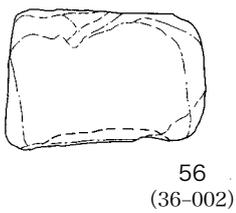
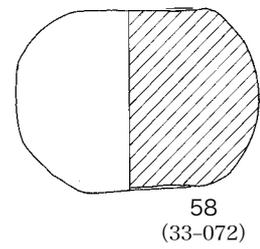


Fig. 2-8 出土石塔類実測図4

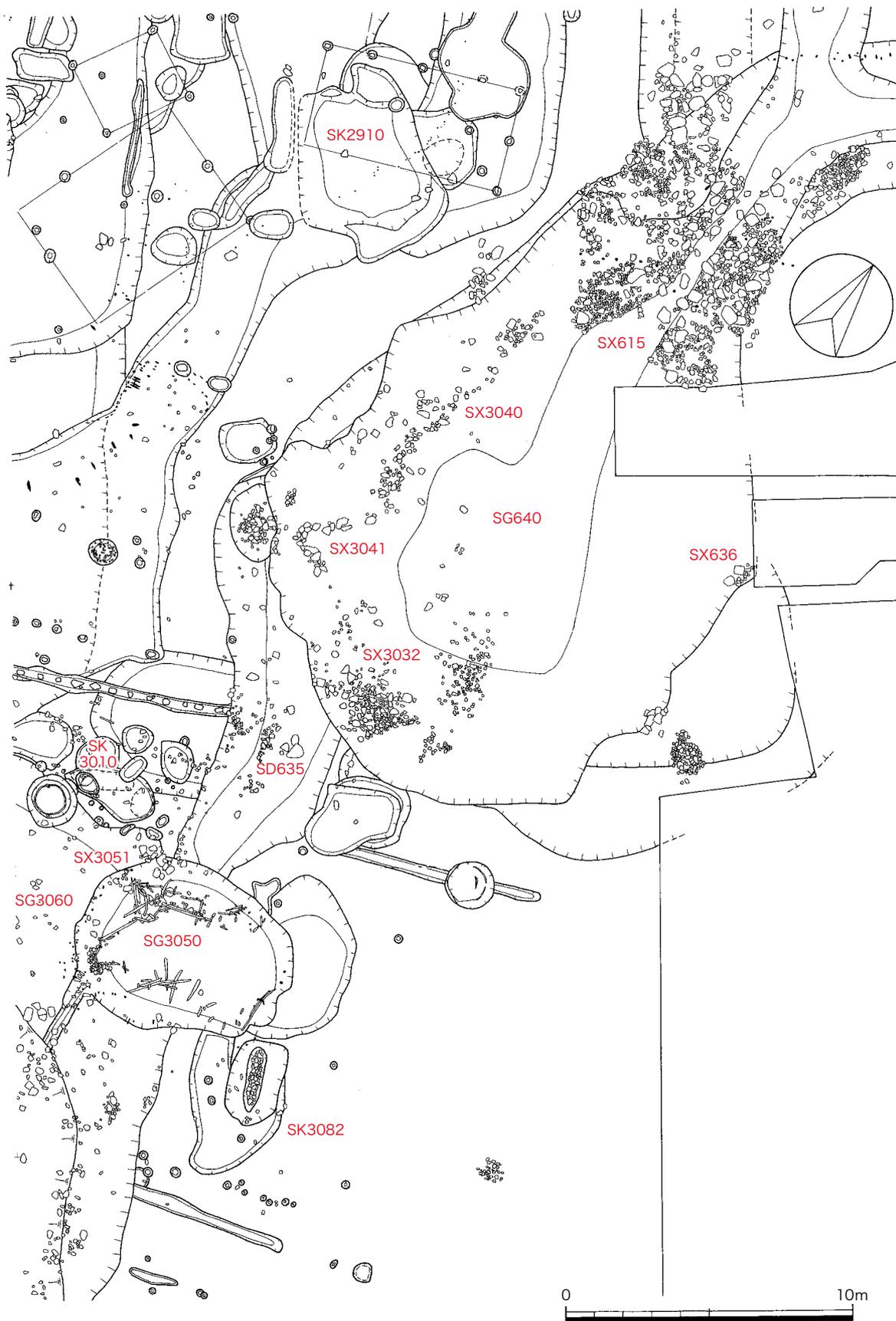


Fig. 2-9 寺院地区周边遺構図 (南東側)

47は五輪塔空風輪で凝灰角礫岩製。下面に柄がある。空輪径12cm台、風輪径13cm台、高さ21cm台。

48は五輪塔空輪で流紋岩質凝灰岩製。下面に柄がある。空輪の四方を表す梵字「𑖀𑖀𑖀𑖀」を陰刻している。径20cm台、高さ20cm台である。

49は五輪塔空輪で流紋岩質凝灰岩製。下部は失われている。空輪の四方を表す梵字「𑖀𑖀𑖀𑖀」を陰刻している。径は23cm台である。

50は五輪塔火輪で流紋岩質凝灰岩製。上・下面に柄穴がある。火輪の四方を表す梵字「𑖀𑖀𑖀𑖀」を陰刻している。幅35cm台、高さ19cm台で大型品の部類になる。

51は五輪塔火輪で花崗岩製。上面に柄穴がある。幅25cm台、高さ16cm台。

52は五輪塔水輪で花崗岩製。上・下面に柄がある。水輪の四方を表す梵字「𑖀𑖀𑖀𑖀」を陰刻している。径23cm台、高さ19cm台。

53は五輪塔水輪で流紋岩質凝灰岩製。上面に柄がある。径43cm台、高さ32cm台で大型品である。

54は五輪塔水輪で流紋岩質凝灰岩製。上・下面に柄がある。径34cm台、高さ27cm台。

55は五輪塔水輪で花崗岩製。上・下面に柄がある。径30cm台、高さ24cm台。

56は五輪塔地輪で凝灰角礫岩製。下面に刳り込みがある。幅21cm台、高さ14cm台。

57は宝篋印塔塔身で凝灰角礫岩製。上・下面に柄がある。幅15cm台、高さ25cm台。

58は五輪塔水輪で花崗岩製。径27cm台、高さ20cm台。

SD3130 (第34・35次調査 Fig. 2-5)

S G 3060の西側にあり、幅1.5～3mで、東西約60m、南北23mの直角溝。土師質土器、備前・常滑・瀬戸、箸状木製品・漆器などが出土している。

6は五輪塔火輪で花崗岩製。上面に柄穴があり、軒の反りが顕著。幅26cm台、高さ15cm台。

その他の地区

SG4900・SV4909 (第45次調査 Fig. 2-5)

流水による削平を受けており、東西6m、南北2mが残る池。護岸の石組(S X 4909)があり、その中に五輪塔1点が使用されている。

7は五輪塔空風輪で花崗岩製。空輪部は一部が残るだけである。風輪径17cm台。

SE1150 (第21次調査)

内径1.0mの石組井戸。井側内の中に礫層があり、井戸の廃絶に際して投入されたものであろう。この礫層の中に五輪塔地輪1点がある。なお、礫層の上位は砂層で遺物はほとんどなく、埋め立てられず放置されたようである。

SX1253 (第23次調査 Figs. 2-3・10)

径1.3m、深さ0.2mの不整形な坑内に礫を詰め、ほぼ中央に五輪塔地輪を据え、その周辺には大きい石を配している。墓と推定される。坑内からは韃の羽口や鉄釘などが出土している。

8は五輪塔地輪で凝灰角礫岩製。幅46cm台、高さ22cm台の大型品で、下面中央にはドーム状の刳り込みがある。

8) 礫層内の遺物を取り上げる際の層位名を灰色砂としている(付表参照)。



Fig. 2-10 SX1253

SK3425 (第36次調査 Fig. 2-11)

径2.0～2.7m、深さ0.5mで、坑内には杭が5本見られ、1本は転倒していたが、直線上に並ぶ4本は打ち込まれており、うち1本は柱状塔婆である。下部に20cmほど粗砂を入れた後に、坑内の中央部に底面を上にした五輪塔火輪を置いていた。S G3060がある程度埋没した段階で造られたもので、墓坑と推定される。

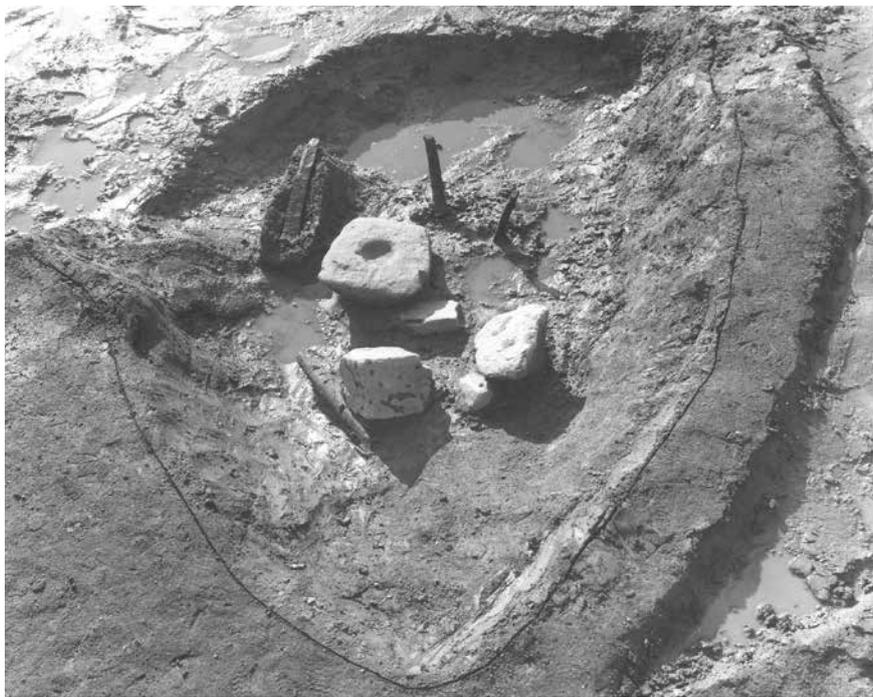


Fig. 2-11 SK3425

5 V 期前半 (Fig. 2-12、Tab. 2-1)

草戸千軒町遺跡では、16世紀初頭に中世集落として終焉を迎えることになる。その後、前代までの大規模な遺構の場所を踏襲するかたちで、主に池・溝などの灌漑施設が築造されている。また、用水路や井戸も設けられ、家屋が散在的に存在し、周りに耕作地が広がっていたことが想定される。

石塔が出土した遺構について、S D1831はS X600に近接し、S G640はS D635と、S G3050・S G3420はS G3060と共に重複関係を持っている。S G030は遺跡包蔵中洲の北部、S E4880は中洲の北端近辺になる。

SD1831 (第27・32次調査 Fig. 2-13)

南北約50m、幅0.3~0.5mで、灌漑用の用水路と想定される。石塔が出土した場所はS X600の西側6mの地点である。

65は五輪塔空風輪で花崗岩製。空輪径は16cm台。

SG640 (第13・33次調査 Fig. 2-13)

径約16~21m、深さ1.1mの池。土師質土器、日本産陶磁器(江戸時代初期)、折敷・漆器・柱状塔婆、骨角製筭などが出土している。なお、S X636・S X3032はS G640内の礫群であり、これらの中に含まれるものを含めて、五輪塔9点、宝篋印塔1点などが出土している。また、S G640からS D612が延びており、これらの築造の際にS X615を壊している。

59は五輪塔空風輪で花崗岩製。下面に柄がある。空輪径15cm台、風輪径16cm台。

60は五輪塔風輪で流紋岩質凝灰岩製。上面に柄穴、下面に柄がある。径24cm台、高さ12cm台。

61は一石五輪塔で花崗岩製。空輪部と風輪部である。径は15cm台で、横断面は円形に近い。なお、出土したのはS D635とS G640が重複する地点で、出土遺構の判別が困難な状況であるが、ここではS G640の項で紹介する。

62は宝篋印塔笠で結晶質石灰岩製。上部は屋根が5段で隅飾突起が大きく外反し、下部には4面に各3枚の受花が表現されている。上・下面に柄穴がある。幅は27cm台で若干の欠失、高さは24cm台。

63は五輪塔火輪で流紋岩質凝灰岩製。上・下面に柄穴がある。幅28cm台、高さ15cm台。

64は五輪塔火輪で凝灰角礫岩製。上面に柄穴があり、軒の反りが顕著。幅22cm台、高さ14cm台。

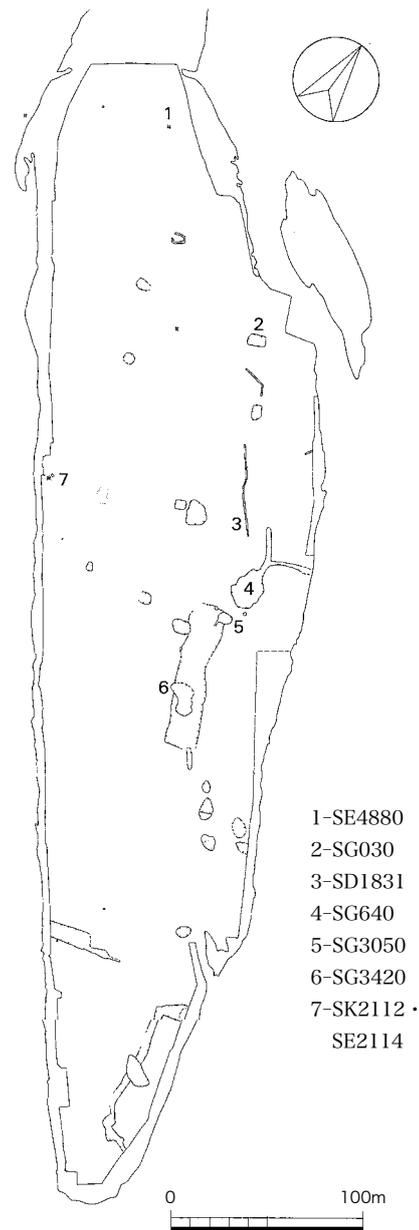


Fig. 2-12 時期別出土遺構分布図5 (V期前半)

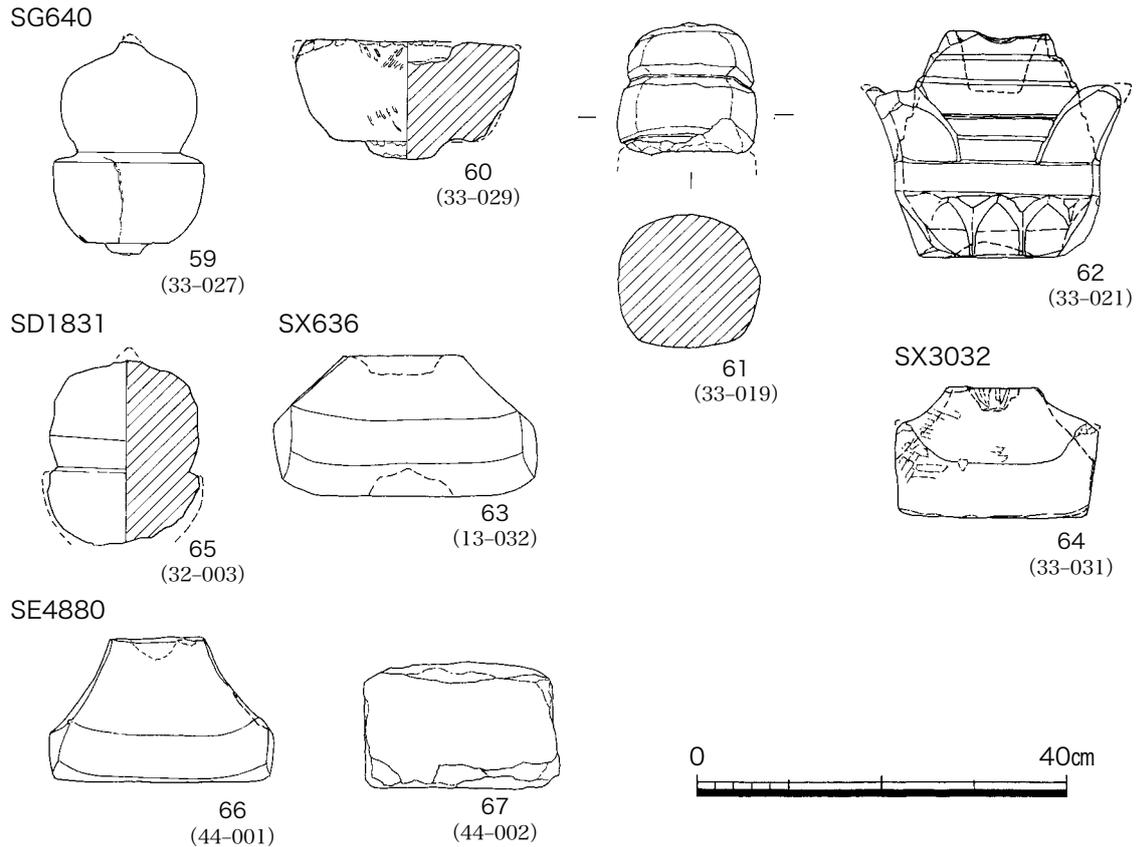


Fig. 2-13 出土石塔類実測図5

SE4880 (第44次調査 Fig. 2-13)

内径0.9~1.2mの石組円形井戸。井側の石材の中に、五輪塔の火輪と地輪が含まれていた。

66は五輪塔火輪で花崗岩製。上面に柄穴がある。幅24cm台、高さ15cm台。

67は五輪塔地輪で凝灰角礫岩製。幅21cm台、高さ13cm台。

6 遺構外

以上の遺構以外に、包含層や表土層、現代に形成された流路などから石塔類が出土しており、ここで紹介する。

包含層 (Fig. 2-14)

68は五輪塔空風輪で凝灰角礫岩製。下面に柄がある。空輪径13cm台、風輪径14cm台、高さ22cm台。

69は五輪塔空輪で流紋岩質凝灰岩製。下面に柄がある。径22cm台、高さ19cm台。

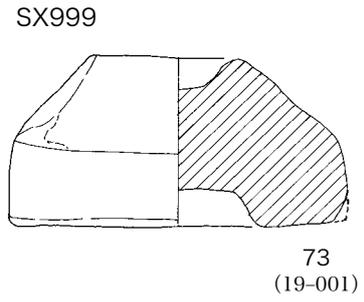
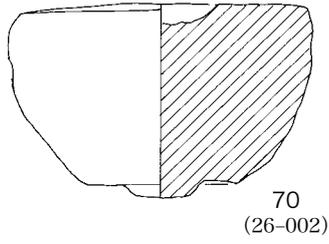
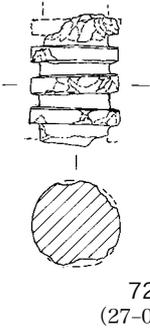
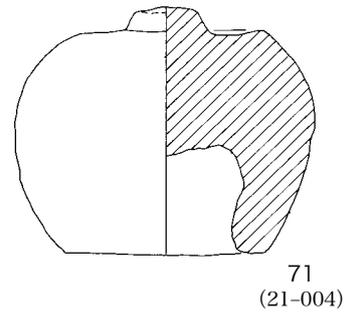
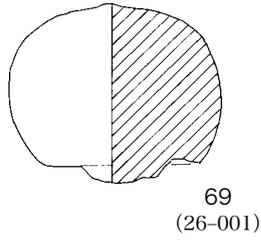
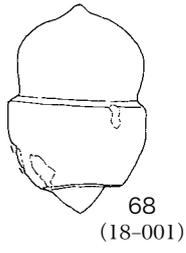
70は五輪塔風輪で流紋岩質凝灰岩製。上面に柄穴、下面に柄がある。径32cm台、高さ20cm台。

69・70は同一の地区・層位からの出土でセットになると見受けられる。

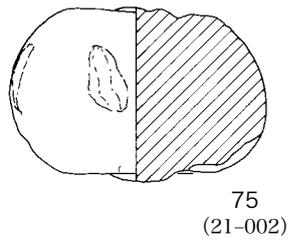
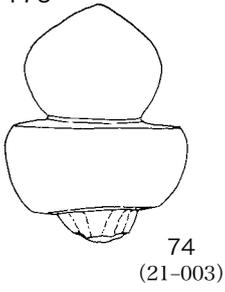
71は五輪塔水輪で流紋岩質凝灰岩製。上面に柄、下面に割り込みがある。径32cm台、高さ26cm台。

72は相輪で凝灰角礫岩製。九輪の部分で五輪が認められる。径は9cm台。

包含層



SD1175



表工

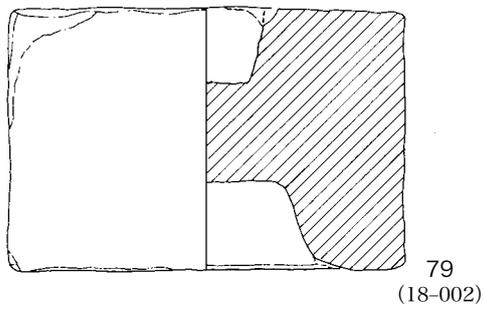
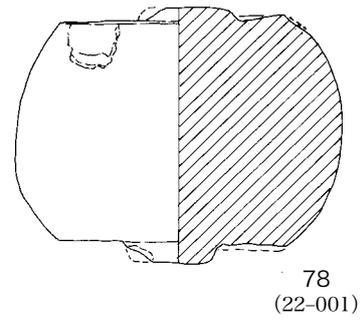
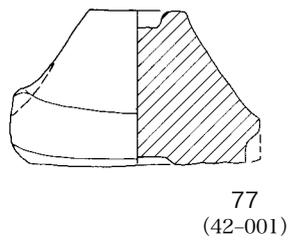
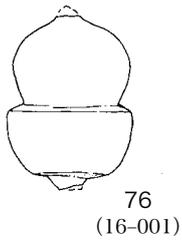


Fig. 2-14 出土石塔類実測図6

Tab. 2-2 包含層等出土状況一覧

出土地	種別・部位・数量
包含層	五輪塔空風輪 1・空輪 1・風輪 1・水輪 1・地輪 1 相輪 1 小片 2
表土	五輪塔空風輪 3・風輪 1・火輪 3・水輪 4・地輪 2 石塔か 1 小片 1
その他 *1	五輪塔空風輪 1・風輪 1・火輪 2・水輪 1 石塔か 4

*1 その他には S X999・S D1175や出土地点を明確にできないものなどが含まれる。

S X999 (Fig. 2-14)

長径16.5m、短径4mの集石群で、昭和初年からの河川改修工事以降に形成されたもの。

73は五輪塔火輪で流紋岩質凝灰岩製。上・下面に柄穴がある。幅36cm台、高さ18cm台。

SD1175 (Fig. 2-14)

遺跡包蔵中洲の北部にある流路で幅8～10m。昭和初年からの河川改修工事以降に形成されたもの。

74は五輪塔空風輪で流紋岩質凝灰岩製。下面に柄がある。空輪径14cm台、風輪径19cm台で、両者の大きさに差がある。

75は五輪塔水輪で流紋岩質凝灰岩製。上・下面に柄がある。径27cm台、高さ19cm台。

表土層 (Fig. 2-14)

76は五輪塔空風輪で花崗岩製。下面に柄がある。空輪径12cm台、風輪径13cm台、高さ18cm台。

77は五輪塔火輪で花崗岩製。上・下面に柄穴があり、軒の反りが顕著。幅26cm台、高さ16cm台。

78は五輪塔水輪で流紋岩質凝灰岩製。上・下面に柄がある。径34cm台、高さ27cm台。

79は五輪塔地輪で流紋岩質凝灰岩製。上面に柄穴、下面に刳り込みがある。幅42cm台、高さ28cm台の大型品である。

さて、石塔類は芦田川河川改修工事に際して昭和5年(1930)に出土し、いわば遺跡発見の端緒となったもので、この時に出土した石塔類は、遺跡の西側にある明王院境内へ移されている。この石塔類について、昭和38年(1963)段階で古西武彦氏が種別と点数を整理されている⁹⁾。その後、田邊英男氏は発掘調査で出土した石塔類の検討を進める中で、昭和60年(1985)段階で明王院の石塔群は、河川改修工事で出土したもの以外に、その後に近隣から持ち込まれたものがあることに触れられている¹⁰⁾。古西武彦氏の整理では、五輪塔の空風輪が31点、火輪が59点であるが、令和5年(2023)段階で空風輪が40点以上、火輪が70点以上確認される。現在の明王院境内の石塔群は河川改修工事で出土したもの以外を一定数含むものになっている。

9) 古西武彦前掲4。

10) 田邊英男前掲6。

Ⅲ 石塔類の特徴

1 形状と材質

草戸千軒町遺跡から出土した石塔類は、総数は200点を超える。その多くは、石積に再利用されたり、池や溝の埋立土内から廃棄された状態で出土するなどしており、原位置を保っているものは少ない。そのため、石塔類の製作時期やこの地に搬入された時期は出土状況から判断することは困難である。

これまで遺跡から出土した石塔類の時期については、特に五輪塔の火輪を年代判定の根拠とし、「凝灰岩製の火輪軒の緩やかな反り」をもつものを「鎌倉時代頃」に、「花崗岩や凝灰角礫岩製の端反りの大きいもの」を「室町時代後半」として¹¹⁾おり、こうした年代観は発掘調査報告書にも反映されており、前者を「古式」、後者を「新式」として¹²⁾記述されている。

こうした石材と生産時期の相関は、概ね首肯されるものではあるが、詳細に見ていくと、火輪以外にも年代が判定できそうな資料も見受けられる。

そこで、ここでは、五輪塔の各部位の特徴を改めて石材ごとに整理し、製作された時期について若干の考察を加えてみたい。

なお、石材については、広島大学教授（当時。現在は広島大学名誉教授。）の沖村雄二氏に教示をいただき、その後、香川県大川広域行政組合の松田朝由氏にも実見・助言をいただいた。また、研究所の職員らが肉眼観察で判断したものもある。

主要な石材は、花崗岩・凝灰角礫岩・流紋岩質凝灰岩である。なお、松田氏によれば、花崗岩については、在地のものとして兵庫六甲山地産のものがあり、凝灰角礫岩の中には香川県の天霧石や三豊石、流紋岩質凝灰岩の中には香川県の国分寺石や火山石、愛媛県の伊予白石などが見られるという¹³⁾。

(1) 空輪・風輪

花崗岩製の空風輪（7・10・27・28・29・30・45・46・59・65・76、数字は前節の実測図番号、以下同じ）は、いずれも空輪と風輪を一石で造っており、梵字が彫り込まれているもの（45）もある。空輪の最大径は中央部にあるもの多く、緩やかな丸みをもって風輪との接合部へ続く。風輪の下半も緩やかな丸みをもって柄へ続くものが多いが、側面形がいわば筒形で空・風輪の間に溝を彫り込んだもの（30）もある。柄は、大きく突出するもの（45・46・76）と小さく突出するものが見られる。

凝灰角礫岩製の空風輪（15・19・31・36・47・68）は、空輪と風輪を一石で造っているものが多いが、別石で造られた風輪（32）も出土している。花崗岩製のものに比べて、空輪は最大径が上半にあり柄は大きく突出するものが多い傾向がある。

流紋岩質凝灰岩は、空輪（9・48・49・69）と風輪（60・70）を別石で作ったものが多い。これらの多くは伊予白石と呼ばれるもので、本遺跡から出土したものは他の石材のものに比べて大きめである。空輪には柄があり、風輪の上面には柄穴、下面には柄が削り出されている。空輪には梵字を彫り込んだもの（48・49）がある。このほか、一石で作ったもの（74）もある。

11) 田邊英男前掲6)

12) 福島政文「4 石製品」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ』広島県教育委員会、1994年。

13) 松田朝由「中世芸備地域の搬入石塔」『備陽史研究 第29集』、備陽史探訪の会、2023年。

(2) 火輪

花崗岩製の火輪は、上面と下面に柄穴があるもの(4・18・77)と、上面のみに柄穴があるもの(3・6・51・66)がある。上面の柄穴の深さは1～2cm、下面の柄穴の深さは1cm程度である。3は軒幅が32cm台と大型だが、他は26cm台が2点(6・77)、25cm台が1点(51)、24cm台が1点(66)、23cm台が2点(4・18)ある。

凝灰角礫岩製の火輪(16・17・20・37・64)は、いずれも軒幅が22cm前後で花崗岩・流紋岩質凝灰岩製のものに比べて小型である。上面のみに柄穴があり、穴の深さは3～4cmで、花崗岩製のものに比べて深い。20・37は軒の上端がゆるやかな弧状を描くが、64は軒端に向けて大きく湾曲する形状である。16・17は摩滅のためであろうが、全体的に小型で軒があまり反らない。

流紋岩質凝灰岩製の火輪(11・21・50・63・73)は、花崗岩製のものに比べて一回り大きく、また全体の形状としては屋根が低い傾向にある。いずれも上下面に柄穴を有する。73は軒幅36cm台と大型で、上面から軒に向けては直線的で、軒は厚く反りがほとんどない。50も軒幅35cm台と大型であるが、わずかに反りが認められる。63・21は、軒幅28cm台と29cm台でやや小型である。

(3) 水輪

花崗岩製の水輪は側面形が球形で、上下面に柄を有するもの(52・55)と柄がないもの(58)がある。

凝灰角礫岩製の水輪(2・35・38)は側面形が上半部に最大径がある壺形で、上下面は中央が浅くくぼんでいて明瞭な柄穴をもたない。ちなみに、2はⅢ期(15世紀前半)に位置付けられるS K2910から出土している。

流紋岩質凝灰岩製の水輪は、球形の上下を大きく切り取った形状のもの(53・54・78)、壺形のもの(71)と、扁平なもの(34・75)がある。花崗岩製・凝灰角礫岩製のものに比べると大型である。71は、上面に柄、下面に大きな円形の割り込みがある。この割り込みは柄穴というよりは埋納坑(納入坑)であろう。54・75・78は上下面に柄、53は上面に柄があり、摩滅のため明確ではないが34も上下面に柄があるタイプと考えられる。

(4) 地輪

花崗岩製の地輪は出土しているが、割れたものが多く、ここでは取り上げない。

凝灰角礫岩製の地輪(5・8・24・25・26・39・56・67)は、幅が20～25cm台と小型のものが多数を占める。高さ／幅を比較すると、25は0.55と一番低く、26が0.82で最も高い。他は概ね0.6～0.7の間に収まる。また、幅が46cm台の大型のもの(8)があり、下面に径約30cm、深さ約12cmの割り込みがある。

流紋岩質凝灰岩製の地輪は大型のもの(79)がある。下面に幅約26cm、深さ約9cmの割り込みがある。

(5) 出土品の年代について

五輪塔の年代は、各部が揃っているもので紀年銘を有するものが基準となり、個々の部位の形状に加えて五輪塔各部のバランスなども考慮しながら年代の判断がなされている。しかし、遺跡出土の石塔類は紀年銘資料がなく、また、散在した状態で出土していることから組合せは不明で、五輪塔全体の形状を元にした年代の判断も困難である。しかし、五輪塔各部を個々に細かく見ると、時間的な変遷を追えるものもある。こうした点を手がかりに年代を考えてみたい。

花崗岩製五輪塔

備後南部地域の花崗岩製五輪塔については、尾道市や世羅郡世羅町に所在する13～14世紀の大型五輪塔を対象にして年代や系譜の検討が行われている¹⁴⁾。しかし、当遺跡から出土したものはこれよりも小型であり、単純な比較は難しい。そこで、中世に、現在の世羅郡世羅町内に所在していた大田荘域の石造物調査によって得られた年代の傾向を参考にしたい。

大田荘域の石造物はほとんどが花崗岩製である。一般的な傾向としては、地輪が大型のものほど古く、地輪幅に対する地輪高の比率の高いものほど新しいとされている。また、火輪・水輪・地輪の幅は似た数値を示すことが多いことから、火輪・水輪も地輪と同様、大型のものほど古い傾向がうかがえるという。ちなみに、大田荘域の地輪の幅は、法量分布と紀年銘資料の検討から、幅35.0～51.5cmは13～14世紀、30.0～31.0cmは15世紀前半、26.0～28.5cmは15世紀後半、24.5cmは16世紀前半、20.5～23.0cmは16世紀後半、14.0～17.0cmは16世紀末と推定されている¹⁵⁾。

さて、当遺跡から出土したものを見ると、地輪は全体の形がわかるものはないが、3の火輪の幅は32cm台、55の水輪の幅は30cm台とやや大型で、それ以外は火輪が23～26cm台、水輪が23～27cm台に収まる。この数字をそのまま大田荘域の地輪の幅に当てはめた場合、大型のものは草戸編年のⅢ期（15世紀前半）、それ以外はⅣ期（15世紀後半～16世紀初頭）の年代が与えられる。この結果は、出土した遺構の年代と矛盾するものはない。

今回の年代比定については、火輪・水輪・地輪の幅は似た数値を示すという傾向をふまえて、火輪・水輪を地輪の幅の傾向に当てはめて考えてみた。もちろん、火輪・水輪と地輪の幅はぴったりと同じという訳ではないし、当然例外的なものもあることを考慮すべきで、今回の検討結果はあくまで参考の域を出るものではない。今後、他地域の石造物などの検討も踏まえて、さらなる年代の検証が必要である。

凝灰角礫岩製五輪塔

草戸千軒町遺跡から出土した凝灰角礫岩製五輪塔は、香川県の各所から産出されるものを含んでいる。それぞれの石材を使った石塔類は地域ごとに異なる特徴を有しており同列に論ずることはできないが、ここでは遺跡から最も多く出土している天霧石の五輪塔の特徴を見ながら、年代を考えてみたい。

まず、空輪と風輪は、別石で彫成されたものもあるが、多くは一石彫成である。鎌倉時代後期は別石彫成のみで、それ以降は一石彫成のものも見られるようになる。

火輪は、64が軒の四隅が突出気味になっており、15世紀後半以降のものと考えられる¹⁶⁾。また、16・17は香川県高松市の浜ノ町遺跡出土の火輪と比較すると、15世紀後半に位置づけられているもの¹⁷⁾よりも明らかに小型で、法量は16世紀前半代のものに似る。

14) 佐藤昭嗣「芸予諸島ならびに周辺地域の中世五輪塔 一安芸・備後の花崗岩製五輪塔を中心として」『岡山商大社会総合研究所報23』、2002年。

15) 藤沢典彦「2 大田荘の石造遺品とその背景」『中世荘園における寺社の研究調査報告書』、(財)元興寺文化財研究所、1996年。

16) 松田朝由「第2章 弥谷寺の石造物」『四国八十八ヶ所霊場第七十一番札所 弥谷寺調査報告書』、香川県・香川県教育委員会、2015年。

17) 松田朝由「中世石造物の流通から見た讃岐の地域性と野原」『中世讃岐と瀬戸内世界 港町の原像：上』、市村高男・上野進・渋谷啓一・松本和彦編、岩田書店、2009年

水輪は、遺跡出土の資料ではⅢ期（15世紀前半）に位置付けられる S K 2910から2が出土しており、幅24cm台を測る。他には、35が22cm台、38が20cm台である。

地輪は、鎌倉時代後期は幅に対する高さの比率が0.6以下と低く、南北朝期には0.7以上と高くなる。これによるならば、遺跡出土のものは多くは鎌倉時代後期から一部に南北朝期以降のものが含まれることになる。ただ、花崗岩製の五輪塔と同様に、天霧石製の五輪塔も時代が下るに従い、徐々に小型になるとされている。当遺跡出土の地輪の中で、多数を占める幅20～25cm台のものは、南北朝期よりもさらに時期が下るものと考えられる。

以上を草戸編年にあてはめると、空風輪はⅡ期後半（14世紀中葉）以降、水輪はⅢ期、火輪・地輪はⅣ期頃に位置づけられ、総じてⅡ期後半～Ⅳ期の年代を与えられよう。

流紋岩質凝灰岩五輪塔

流紋岩質凝灰岩製五輪塔は伊予産と推定される。流紋岩質凝灰岩製五輪塔は愛媛県の五輪塔の検討により、¹⁸⁾ 時期による形の変遷が捉えられている。

空輪は、最大径が中央部から下側にある49が鎌倉時代前期後半から中期、最大径が中央付近にあって球形に近く頂部突起のある48・69は鎌倉時代中期の特徴とされる。

水輪は一般的には時代が下るにしたがい最大径の位置が高くなる傾向が指摘されている。球形の上下を大きく切り取った形状で最大径が中央にあるものは鎌倉時代中期に、壺形の水輪は鎌倉時代後期に比定されており、こうした見解に従えば、53・54・78は鎌倉時代中期に、71は鎌倉時代後期に充てられる。

地輪については、形態的な特徴による時期の判断は困難である。

以上、形状からうかがえる年代を草戸千軒町遺跡の編年に照らせば、空輪や水輪はⅠ期（13世紀後半）からⅡ期前半（14世紀前半）頃の特徴を有しているといえる。いずれも花崗岩・凝灰角礫岩製のものよりも大型である。地輪についても、花崗岩製・凝灰角礫岩製のものよりも大型で、製作時期は空輪・水輪と同様にⅠ期からⅡ期前半頃のものと考えたい。

以上、石材と形状から、五輪塔の時期を考えた。その結果、伊予産と推定される流紋岩質凝灰岩製のものはⅠ～Ⅱ期前半、讃岐産と推定される凝灰角礫岩製（そのうち天霧産）のものはⅡ～Ⅳ期、花崗岩製のものについてはⅢ～Ⅳ期と推定される結果となった。これは、これまで報告書等で言われていた内容と変わるものではない。ただ、現在ではより細かな産地の同定が行われるようになっており、今後さらなる詳細な検討が必要である。

なお、石塔の種別には、五輪塔以外に宝篋印塔・層塔・一石五輪塔などがあるが、出土数は少ない。石材については、宝篋印塔は凝灰角礫岩と結晶質石灰岩、層塔は流紋岩質凝灰岩、一石五輪塔は花崗岩がある。

18) 森章「四国の五輪塔の系譜（伊予の白石の五輪塔）」『史迹と美術』690、1998年。

海邊博史「四国 5 伊予の五輪塔と宝篋印塔の分類と変遷」『中世石塔の考古学 五輪塔・宝篋印塔の形式・編年と分布』、狭川真一・松井一明編、高志書院、2012年。

2 出土地区 (Fig. 3-1、Tab. 3-1)

石塔類の出土状況を整理すると、I期では3か所の遺構に小片が見られるに過ぎず、II期後半に至って種別・部位が明らかなものが出土する。III期まで出土数が少量であるのに対し、IV期に集中的に出土しており、特にIV期後半に多い。V期前半では、石塔類が出土したIV期の遺構と重複関係を持つものがある。種別では五輪塔が多く、宝篋印塔、層塔、一石五輪塔などがある。

石塔類の出土した地点について、本来置かれた場所にあると見られるのは墓と推定されるS X1253の五輪塔地輪のみである。また、墓坑と推定されるS K3425の五輪塔火輪は、原位置ではないが近辺にあった可能性はあるだろう。

出土した石塔類は、ほとんどが原位置から移動しているが、これは本来有していた墓塔としての性格を失い、石材として新たな構築物に利用されたり、不用品として溝・池などの施設の中へ廃棄されたりしている。新たな構築物には、突堤状遺構の石組(S X588・S X600・S X615)、池の護岸石組(S G3050・S G4900)、井戸側の石材(S E4880)などがある。その移動の時期がIV期に集中するのである。石塔類は墓塔という施設として設置されるものであり、設置時期と移動時期の間には時間差がある。IV期の遺構からの出土品にあっても、前代に設置したものが相当数あるだろう。

出土した地区については、寺院地区とその周辺に多い。草戸千軒町遺跡では、遺跡包蔵中洲北寄りの場所に、集落の成立段階から中心的な地区が成立し、I期からIII期までを中心区画、IV期を柵囲区画と呼んでいる。その区画内の南東部に寺院があり、I期からII期にかけても寺院が関わる地区だったことも想定されている。III期に至って、南側を正面として四脚門と柵を設けるなど寺院として施設を整備している¹⁹⁾。

出土点数が多いのが寺院地区内の蓮池と推定されるS G2810で、掘形・下層・中層にもあるが、特に上層内の礫群(S X2811)に多く含まれる。種別・部位が判別するものもあるが、判明しないものや小片が相当数ある。小片と化した要因は、経年による風化も挙げられようが、或いは人為的な破損も想定できないだろうか。S G2810はIII期に築造された施設で、IV期後半になるS G2810上層はその最終的な埋立層で、礫群が形成されている。この礫群に石塔類が多く含まれ、焼けた人骨片も多く含まれる。蓮池の埋立てに際して、周辺にあった墓や石塔を整理して投入したことも想定される。

蓮池は寺院地区の一つの象徴的な施設ではなかろうか。これが埋め立てられてしまうことは、寺院地区のありようが変わったことを意味するものでもあろう。

こうした地区・施設のありようの変化は、石塔類を用いた突堤状遺構のS X588・S X600・S X615からも窺える。寺院地区の東側には、芦田川や瀬戸内海に繋がる水路が到達し、さらに柵囲区画内の東側に延びる水路網がII期後半から整備されていた。IV期後半に至って突堤状遺構により水路は遮断されることになり、集落が有していた水運と流通機能の低下など推定される。

IV期後半は、遺跡が中世の集落としての最終段階である。この時期に多くの石塔類が移動して、構築物に利用されたり、遺構(当時の施設)内へ埋没したりする訳だが、その背景に石塔類が広く整理されるような事態が起きたことが推測される。寺院地区の変容はこれに関連しており、蓮池の埋め立てや石塔類の整理により、寺院としての性格が弱まったものであろう。

19) 岩本正二「まとめ」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告書V』広島県教育委員会、1996年。

V期前半の遺構からも石塔類が出土しており、構築物への利用や遺構内への埋没が見られる。前代の寺院地区とその周辺にあたる場所からの出土が目立つ。中世の集落段階とともにV期前半に設置された石塔類も含まれる可能性がある。

次に、石塔類が出土した地点の様相に触れる。Tab. 3-1は地区ごとに種類・点数を整理したもので、遺跡の南北大区のY・A・B・C区を北部、D・E・F区を中央北寄り、G・H・I区を中央南寄り、J・K・L区を南部とした。石塔類の総数は200点を超え、9割近くが遺構からの出土で、先に触れたように、石材として新たな構築物に利用されたり、不用品として溝・池などの施設の中へ廃棄されたりしている。各地区については、北部13点、中央北寄り189点、中央南寄り13点、南部2点で、中央北寄り地区が9割近くを占める。中央北寄り地区には寺院地区があり、墓遺構も数多く検出されている。北部地区は散在的な状況である。中央南寄り地区は北寄りのG区に限られ、南部地区は2点のみの出土である。このように、寺院地区を含む中央北寄り地区に集中しており、北部地区は散在的に見られ、遺跡南半部（中央南寄り地区から南部地区）では稀少品であると言える。

遺跡南半部の遺構の状況について、遺跡北半部（中央北寄り地区から北部地区）に比較すると疎らにはなるが、一定の展開は確認できる。I期では集落の縁辺部

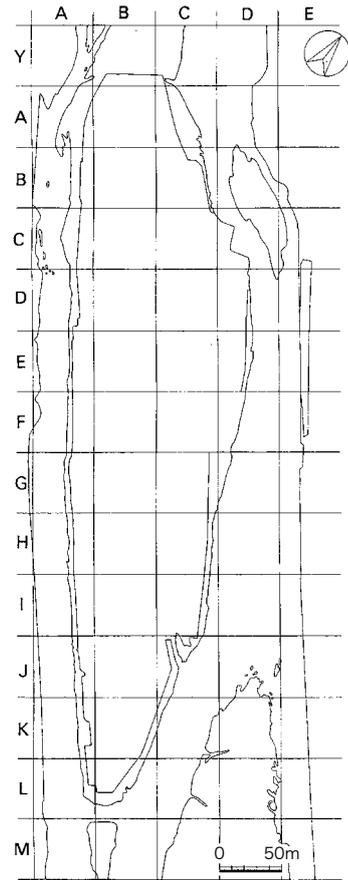


Fig. 3-1 草戸千軒町遺跡地区割図

Tab. 3-1 地区別出土状況一覧

地区	出土地・種類・点数	
北部	遺構	五輪塔 5 小片 1 (遺構数 5)
	その他	五輪塔 7
中央北寄り	遺構	五輪塔 71 一石五輪塔 3 宝篋印塔 7 層塔 2 相輪 3 石塔か 44 石塔片か 19 小片 26 (遺構数 28)
	その他	五輪塔 9 相輪 1 石塔か 1 小片 3
中央南寄り	遺構	五輪塔 7 (遺構数 3)
	その他	五輪塔 3 石塔か 3
南部	その他	五輪塔 2

※遺構はI期～V期前半のものである

20) 遺跡の実測座標に基づくもので、50mごとの大地区割をアルファベットで表示している。

21) 遺跡の墓遺構の様相や変遷については福島政文氏が言及されている（前掲5）。

としての様相を見せるが、Ⅱ期には居住地として利用され、Ⅱ期後半には短冊形区画群が広がる。Ⅲ期には前代に比して閑散とした様相を示すが居住地として継続している。そして、Ⅳ期後半に環濠区画が成立する。中心となる環濠は外縁部で東西70m以上、南北約100mの規模で、幅9～16m、深さ1.8mほどあり、内側には土塁の存在も想定される。濠内部の遺構の配置や出土遺物の様相から、在地領主などの居館の可能性が高い。こうした変遷の中で、石塔類は稀少品になっている。

石塔類全体の出土状況を見ると、中心区画内及び柵欄区画内の南東側にある寺院地区とその周辺に多い。この他の場所からも出土しているが広く点在している状況ではない。遺構の分布と変遷を踏まえれば、石塔類については、草戸千軒の集落の各所ではなく限られた場所で設置されたように見受けられる。このことは、石塔類を設置に関わったのは、広範囲には及ばず特定の人々だったことが想定される。

3 木製塔婆類 (Fig. 3-2、Tabs. 3-2・3)

草戸千軒町遺跡からは、石塔類のみならず木製塔婆類も出土しており、全般的な概要や個別品について報告されている²²⁾。板塔婆と柱状塔婆と呼んでいるものがあり、前者は板材を使用、後者は丸木材を使用したもので樹皮が残るものがある。

板塔婆は25点確認されている。破損により本来の状態が確認できるものは少ないのであるが、長さは30cm弱から1mを超えるものまでさまざまである。形状は上部に関しては、五輪形、三角形で切込みを2箇所入れたもの、三角形と3種類あり、下部は平坦なものや尖らせたものがあり、何かに打ち付けたことを示す釘孔や木釘が残るものもある。記された文言は「**阿彌陀佛**」をはじめ、仏・菩薩などの諸尊を梵字で記した種子や光明真言、六字名号などがあるが、多く墨書の部分が浮き上がっており、長期間外気にさらされていたことを物語る。

柱状塔婆は5点確認されている。下部が残存する4点は何れも尖らせており、うち1点は地中に打ち込まれていた。文言を記す部分を平坦に削り整えている。ただ、墨書は残存状態が不良で、文言の全容が分かるものはない。

こうした板塔婆・柱状塔婆が出土した遺構は、石塔類も併せて出土したものも多く、遺跡の中での位置は次のようになる。

I期ではS E 2171・S G 2741・S G 2742は中心区画内の南側にあり、S G 2741・S G 2742は重複関係にある。S G 3200は中心区画に南接しており、S G 2742とは5mの距離である。石塔類はS G 2741から出土している。

Ⅱ期ではS D 520・S G 1791・S K 1825・S G 2740は中心区画内の東側から南側にあり、S D 520・S K 1825は重複関係にある。S G 3060は中心区画の南側に接している。石塔類はS D 520・S G 2740下層から出土している。

Ⅲ期ではS E 016²³⁾・S D 450は中心区画内の北東側にある。Ⅲ期からⅣ期にかけてのS D 620は、中心区画内の南東側に成立する寺院地区の東側に接している。なお、これらの遺構からは石塔類は出土していない。

22) 下津間康夫「墨書木札類—信仰・呪術資料について—」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅳ』広島県教育委員会、1995年。

広島県立歴史博物館『草戸木簡集成』1～3、1999・2000・2004年。

23) S E 016の時期について、前掲22)の下津間報告ではⅡ期としているが、その後の整理・検討によりⅢ期に変更された。

IV期ではS K 582・S D 635は柵囲区画内の寺院地区の東側に接する。S G 3060は寺院地区の南側に接し、S K 3425はS G 3060と重複関係にある。IV期後半に遺跡包蔵中洲の南部に環濠区画が成立し、在地領主などの居館の可能性が高い。S D 760はこの環濠区画の中心的な濠で、S D 848はS D 760へ接続している。石塔類はS D 635・S G 3060・S K 3425から出土している。

V期前半のS G 640は、IV期に寺院地区の東側に接する場所にあったS D 635と重複関係にあり、石塔類も出土している。

Tab. 3-2 出土板塔婆一覧

時期	遺構番号	点数	特徴等
I期前半	S E 2171	1	文字片面、浮き上がり、釘孔1
I期後半	S G 2741	1	文字確認できず
	S G 2742	1	文字確認できず
	S G 3200	1	文字確認できず
II期後半	S D 520	2	2点とも文字確認できず
	S G 1791	1	文字片面
	S K 1825	1	文字両面
	S G 2740 下層	1	文字両面
	S G 3060 下層	1	文字片面、浮き上がり、木釘1
III期	S E 016	2	2点とも文字片面、浮き上がり、1点は釘孔2
	S D 450	1	文字片面
IV期前半	S K 582	1	文字確認できず、釘孔1
IV期後半	S D 635	2	2点とも文字両面、浮き上がり
	S D 760	1	文字片面、明應二年銘
	S D 848	1	文字確認できず
II期後半～V期前半	S G 3060	7	4点に文字あり、何れも片面、3点浮き上がり 他に断片1点（板塔婆の可能性、永禄四年銘）

Tab. 3-3 出土柱状塔婆一覧

時期	遺構番号	点数	特徴等
III期～IV期前半	S D 620	1	文字一面、浮き上がり
IV期	S K 3425	1	文字一面、他に断片1点（文字あり）、 柱状塔婆の可能性あるもの4点（文字確認できず）
II期後半～V期前半	S G 3060	2	1点は文字一面、1点は文字二面
V期前半	S G 640	1	文字一面

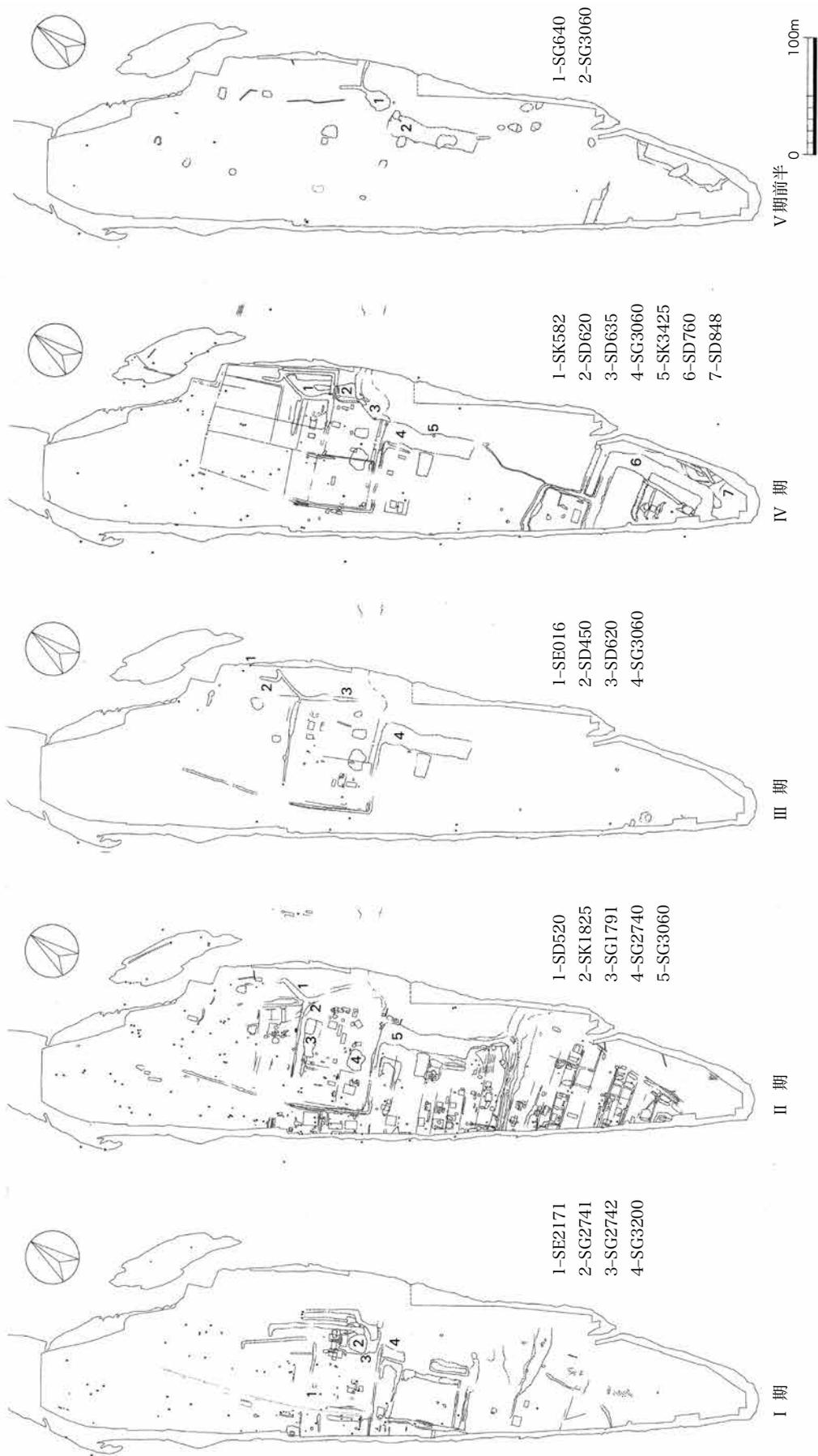


Fig. 3-2 木製塔婆類出土遺構分布図

以上のように、木製塔婆類はI期の段階から出土しており、中心区画内に多く、寺院地区に接する場所が目立つ。IV期には、居館と見られる環濠地区からも出土している。石塔類と同様に、集落の各所には広がっておらず、関わったのは広範囲には及ばず特定の人々だったことが想定される。

石塔類と板塔婆・柱状塔婆が共に多く出土したのがS G 3060である。II期後半からIV期後半にかけて水路や集落の区画施設として機能し、寺院地区の南側に接しており、一部はV期前半まで施設として継続している。このS G 3060から永禄4年(1561)銘の断片²⁴⁾が出土しており、他の墨書木札の記載例から板塔婆もしくは御札と推定される。御札は大般若経の転読札や修正会に関わるもので宗教的な行事を背景としている。永禄4年は草戸千軒では賑わいが失われ中世集落として終焉を迎えていた段階であることからすれば、御札よりも板塔婆の可能性が高いのではあるまいか。また、前に触れたようにこの段階でも石塔類が墓塔として設置された可能性がある。IV期後半に寺院地区では、墓と石塔の整理や蓮池の埋立てにより寺院としての性格を弱めているが、近辺では墓地として継続していた場所があったことが想定される。

24) 木簡468号。なお、年号が記された出土品には、明応2年(1493)銘の板塔婆(木簡496号、S D 760出土)、明応4年(1495)銘の御札(木簡505号、S D 4456出土)、永正年間(1504~1521)の可能性のある御札(木簡498号、S D 760出土)がある(『草戸木簡集成3』広島県立歴史博物館、2004年、に所収)。

IV おわりに

以上、石塔類について、個々の製品の様相と出土状況を中心に見てきた。総数は200点を超え、9割近くは遺構に含まれる。Ⅲ期まで出土数が少量であるのに対し、Ⅳ期に集中的に出土しており、特にⅣ期後半に多い。出土した石塔類はほとんどが原位置から移動しており、本来有していた墓塔としての性格を失い、石材として新たな構築物に利用されたり、不用品として溝・池などの施設の中へ廃棄されたりしている。原位置からの最終的な移動の時期がⅣ期に集中するのである。石塔類は墓塔という施設として設置されるものであり、設置時期と移動時期の間には時間差がある。Ⅳ期の遺構からの出土品にあっても、前代に設置したものが相当数あるだろう。そのため、個々の製品の時期を遺構の時期から判断することはできない。

ただ、出土数の多い五輪塔について、備後国大田荘域に所在する花崗岩製のものは、時代が下ると共に地輪の小型化が進み、幅の平均値も確認されている。凝灰角礫岩である天霧石製のものは、鎌倉時代後期には空輪と風輪が別石で製作されているが、以降は一石でも製作されるようになる。伊予産の流紋岩質凝灰岩製のものは、空輪や水輪で時期による形状の特徴が確認されている。

こうしたことを踏まえて出土品の形状・寸法・材質などに注目すると、花崗岩製品の製作時期は草戸編年のⅢ期からⅣ期、天霧石が多い凝灰角礫岩製品の製作時期はⅡ期後半からⅣ期、伊予産が多い流紋岩質凝灰岩製品の製作時期はⅠ期からⅡ期前半が中心と推定される。

なお、讃岐（天霧）や伊予で製作された五輪塔が草戸千軒町遺跡へ搬入されており、特産品としての位置にあったものだろう。そして、時期の上で伊予産の流紋岩質凝灰岩製から讃岐産の凝灰角礫岩へ切り替わっているように見受けられる。

石塔類が出土した地点について、遺跡包蔵中洲を北部、中央北寄り、中央南寄り、南部に分割すると、中央北寄り地区が圧倒的に多く総数の9割近くを占める。ここには寺院地区があり、墓遺構も数多く検出されている。遺跡では中央北寄り地区から北部地区にかけて、集落の成立段階から中心的な地区が成立し、Ⅰ期からⅢ期までを中心区画、Ⅳ期を柵囲区画と呼んでおり、その区画内の南東部に寺院が存在した。そして、寺院地区以外の場所からも出土しているが広く点在している状況ではない。遺構の分布と変遷を踏まえれば、石塔類については、草戸千軒の集落の各所ではなく限られた場所で設置されたように見受けられる。このことは、石塔類を設置に関わったのは、広範囲には及ばず特定の人々だったことが想定される。

Ⅳ期後半は、遺跡が中世の集落としての最終段階である。この時期に多くの石塔類が移動して、構築物に利用されたり、遺構（当時の施設）内へ埋没したりする訳だが、その背景に石塔類が広く整理されるような事態が起きたことが推測される。併せて、寺院地区が変容するのである。

Ⅴ期前半の遺構からも石塔類が出土しており、構築物への利用や遺構内への埋没が見られる。前代の寺院地区とその周辺にあたる場所からの出土が目立つ。中世の集落段階とともにⅤ期前半に設置された石塔類も含まれる可能性がある。

草戸千軒町遺跡からは、石塔類のみならず木製塔婆類も出土しており、板塔婆と柱状塔婆がある。総数は30点ほどで石塔類に比して少ない。出土した遺構は、中心区画内に多く、寺院地区に接する場所が目立つ。石塔類と共に出土した遺構も一定数ある。木製塔婆類も石塔類と同様に、集落の各所には広がっておらず、関わったのは広範囲には及ばず特定の人々だったことが想定される。

なお、寺院地区に接する場所で永禄4年(1561)銘の断片が出土しており、板塔婆と推定される。永禄4年は中世集落として終焉を迎えていた段階である。ただ、この段階でも石塔類が墓塔として設置された可能性がある。IV期後半に寺院地区は、墓と石塔の整理や蓮池の埋立てにより寺院としての性格を弱めているが、近辺では墓地として継続していた場所があったことが想定される。

草戸千軒町遺跡出土の石塔類について、個々の製品の様相と出土状況を中心に整理した。時期や産地の特徴、集落内での設置場所、設置に関わった人々の範囲、出土状況と集落の変遷の関連などに触れることができた。遺跡の出土品を悉皆的に報告するものであり、中世の石塔類を調査研究する上での参考資料として、本書を広く活用いただければ幸いである。

付表 草戸千軒町遺跡出土 石塔類一覧表

例 言

- 1 本表には、石塔類を全点収録している。
- 2 草戸千軒町遺跡出土資料については、基礎的な整理段階でそれぞれに固有の資料番号を付与した。最初の2桁は調査次数（08－8次・11－11次・・・45－45次）、次の1桁は資料の種類（Q－石製品を対象）を示し、残る5桁を通し番号で配列（00001・00002・・・）している。なお、資料番号に「◎」を付したものは重要文化財の指定品である。
- 3 整理番号は、石塔類を対象に今回整理したものである。最初の2桁は調査次数を示し、「-」の次の3桁は、出土遺構・地区・層位・調査日などを考慮して配列（001・002・・・）した。なお、一つの整理番号に複数の固有番号が含まれるものは、最後にそれぞれを「a・b・c・・・」で配列した。
- 4 出土遺構の中で推定されるものには、遺構番号に「？」を付した。
- 5 時期は、「I期・II期・・・」を「I・II・・・」、「前半・後半」に分類できるものを「前・後」で示した。
- 6 大地区・小地区は、草戸千軒町遺跡の実測座標によるものである。2m四方の小地区割は大規模調査を開始した第9次調査からの設定であるが、第12次段階で基準点を変更した。本表では、第8次調査までは大地区、第9～12次調査については小地区まで、新しい基準点から補正した地区を表示し、小地区は（ ）とした。
- 7 遺構名称は、調査区で発掘調査の際に付与された名称である。
- 8 調査日は資料を取り上げた日付で、年・月・日をそれぞれ2桁で表したものを結合させており、「740329」は1974年3月29日、「910225」は1991年2月25日を示す。
- 9 寸法について、欠失したものは現存値を（ ）で示し、欠失部分が若干に見受けられるものは（ ）で示していない。
- 10 材質の判定は肉眼観察によっている。なお、讃岐・伊予の産地の判別は松田朝由氏の教示によるもので、備考欄に表記した。

整理番号	資料番号	品種・部位	遺構番号	時期	大地区	小地区	遺構名称	層位
08-001	08Q00253	石塔片か(小片)	S G030	V前	C 2	r	大竪穴	
11-001	11Q00280◎	五輪塔地輪	S D510?	III~IV前	DD	(0623)	石組下	
12-001	12Q00271	石塔か	S D520	II後	CE	(2307)	溝	灰色粘土
13-001	13Q00258	五輪塔空風輪	S X588	IV後	CE	2417	石積	
13-002	13Q00285	五輪塔空風輪	S X588	IV後	CE	2417	石積	
13-003	13Q00286	五輪塔火輪	S X588	IV後	CE	2417	石積	
13-004	13Q00277	五輪塔地輪	S X588	IV後	CE	2417	石積	
13-005	13Q00262	五輪塔火輪	S X588	IV後	CE	2417	石組中	
13-006	13Q00266◎	五輪塔火輪	S X600	IV後	DE	0120		暗灰色粘質土
13-007	13Q00273◎	宝篋印塔基礎	S X615	IV後	CF	2104		
13-008	13Q00250	五輪塔空風輪	S X615	IV後	CF	2104		茶褐色砂質土
13-009	13Q00252	五輪塔空風輪	S X615	IV後	CF	2104		暗青灰色粘土
13-010	13Q00272◎	宝篋印塔塔身	S X615	IV後	CF	2105		
13-011	13Q00256◎	五輪塔空風輪	S X615	IV後	CF	2105	石積中	
13-012	13Q00267◎	五輪塔火輪	S X615	IV後	CF	2105	石積中	
13-013	13Q00288◎	五輪塔水輪	S X615	IV後	CF	2105	石積中	
13-014	13Q00287◎	五輪塔地輪	S X615	IV後	CF	2105	石積中	
13-015	13Q00253	五輪塔空風輪	S X615	IV後	CF	2106		青灰色粘土
13-016	13Q00259	五輪塔空風輪	S X615	IV後	CF	2106		
13-017	13Q00251	五輪塔空風輪	S X615	IV後	CF	2205		青灰色粘土
13-018	13Q00274	五輪塔水輪	S X615	IV後	CF	2205		
13-019	13Q00271◎	層塔塔身	S X615	IV後	CF	2206	石積中	
13-020	13Q00289◎	層塔笠	S X615	IV後	CF	2206	石積中	
13-021	13Q00263◎	五輪塔火輪	S X615	IV後	CF	2301		青灰色砂質土
13-022	13Q00265	五輪塔風輪	S X615	IV後	CF	2301		青灰色粘土
13-023	13Q00389	五輪塔火輪	S X615	IV後	CF	2301		青灰色粘土
13-024	13Q00255	五輪塔空風輪	S X615	IV後	CF	2302		青灰色粘土
13-025	13Q00276	五輪塔水輪	S X615	IV後	CF	2302		青灰色粘土
13-026	13Q00278	五輪塔水輪	S X615	IV後	CF	2303	溝, 護岸	
13-027	13Q00269◎	相輪	S X615	IV後	CF	2404	溝	
13-028	13Q00264	五輪塔火輪	S D635	IV後	DF	0403		暗灰色砂
13-029	13Q00260	石塔か	S D635	IV後	DF	0602		暗褐色粘土
13-030a	13Q00281	石塔か	S D635	IV後	DF	0602		暗褐色粘土
13-030b	13Q00282	石塔か	S D635	IV後	DF	0602		暗褐色粘土
13-031a	13Q00280	石塔片か(小片)	S D635	IV後	DF	0602		暗褐色粘土
13-031b	13Q00290	石塔片か(小片)	S D635	IV後	DF	0602		暗褐色粘土
13-032	13Q00261◎	五輪塔火輪	S X636	V前	CF	2410?	池, 畔	
13-033	13Q00231	石塔片か(小片)			CF	--	南端トレンチ	②下層, 暗灰色土
13-034	13Q00254	五輪塔風輪			DE	--	溝	
14-001	14Q00282	石塔か	S E683	?	CH	1801	井戸内	
14-002	14Q00301	石塔か			CG	--	東西トレンチ	
16-001	16Q00250◎	五輪塔空風輪			--	--		表土
18-001	18Q00280◎	五輪塔空風輪			AB	2207		暗褐色砂
18-002	18Q00281◎	五輪塔地輪			AB	--		砂層

調査日	寸法 (cm)	材質	挿図番号	備考
72---	--	結晶質石灰岩		
740329	幅24.4 高15.6	凝灰角礫岩	5	天霧石 or 三豊石
740620	長辺(17.2)	流紋岩質凝灰岩		
740829	空輪径-- 風輪径16.8 高(16.5)	花崗岩		下面柄
740829	空輪径11.9 風輪径13.1 径18.8	凝灰角礫岩	15	下面柄、天霧石
740829	幅20.8 高8.6	凝灰角礫岩	16	扁平、上面柄穴、天霧石
740829	幅(20.7) 高(17.4)	凝灰角礫岩		風化進行、天霧石
740831	幅21.5 高9.4	凝灰角礫岩	17	扁平、上面柄穴
740919?	幅23.2 高16.6	花崗岩	18	上下面柄穴
740810	幅25.4 高22.3	凝灰角礫岩	42	上面柄穴、下面削り込み、天霧石
741001	空輪径16.6 風輪径17.0 高23.3	凝灰角礫岩	31	頂部若干欠、下面柄、天霧石
741121	空輪径13.0 風輪径14.1 高21.0	花崗岩	27	頂部若干欠、下面柄
740810	幅19.8 高27.5	凝灰角礫岩	41	上下面柄、天霧石
741026	空輪径13.2 風輪径15.2 高21.7	凝灰角礫岩	36	下面柄、天霧石
741026	幅24.4 高11.8	凝灰角礫岩	37	上面柄穴、天霧石
741026	径20.5 高15.7	凝灰角礫岩	38	天霧石
741026	幅24.2 高15.8	凝灰角礫岩	39	天霧石
740808	空輪径13.7 風輪径14.5 高19.8	花崗岩	28	下面柄
740810	空輪径14.2 風輪径16.3 高20.3	花崗岩	29	下面柄、風化進行
740808	空輪径14.0 風輪径15.9 高21.4	凝灰角礫岩		頂部若干欠、下面柄、天霧石
740810	径22.6 高18.5	凝灰角礫岩	35	風化進行、天霧石
741104	幅43.3 高17.2	流紋岩質凝灰岩	44	
741104	幅75.0 高33.1	流紋岩質凝灰岩	43	上下面削り込み、国分寺石
740807	幅14.2 高6.1	結晶質石灰岩	33	上面柄穴
740808	径18.1 高9.5	凝灰角礫岩	32	上面柄穴、風化進行
740808	幅29.9 高16.2	凝灰角礫岩		上面柄穴、天霧石
740808	空輪径11.3 風輪径11.8 高16.6	花崗岩	30	下面柄
740808	径(20.8) 高(14.3)	凝灰角礫岩		風化進行、天霧石
740930	径30.0 高18.6	流紋岩質凝灰岩	34	伊予白石
740930	覆鉢径16.8 露盤幅18.5 高(22.4)	花崗岩	40	相輪下部、下面柄
741029	幅29.0 高14.4	流紋岩質凝灰岩	21	上下面柄穴
740930	長辺(32.0)	流紋岩質凝灰岩		
740930	長辺(15.5)	流紋岩質凝灰岩		五輪塔地輪か、火山石
740930	長辺(16.0)	流紋岩質凝灰岩		五輪塔地輪か、火山石
740930	--	流紋岩質凝灰岩		
740930	--	流紋岩質凝灰岩		
741108	幅28.7 高15.1	流紋岩質凝灰岩	63	上下面柄穴、S X636-S G640内石群、伊予白石
741112	--	流紋岩質凝灰岩		
741029	径23.0 高13.9	流紋岩質凝灰岩		1/2欠、上面柄穴、下面柄
741224	長辺(10.2)	流紋岩質凝灰岩		火山石
741016	長辺(18.8)	凝灰角礫岩		天霧石
7508--	空輪径12.1 風輪径13.2 高18.5	花崗岩	76	頂部若干欠、下面柄
760517	空輪径13.7 風輪径14.9 高22.4	凝灰角礫岩	68	下面柄、天霧石
760413	幅42.2 高28.0	流紋岩質凝灰岩	79	上面柄穴、下面削り込み、国分寺石

整理番号	資料番号	品種・部位	遺構番号	時期	大地区	小地区	遺構名称	層位
19-001	19Q00281◎	五輪塔火輪	S X999	VI	B B	2311	石組	暗灰色土
19-002	19Q00282	五輪塔火輪	S X999	VI	B B	2414	石組内	
21-001	21Q00354	五輪塔地輪	S E1150	IV後	B C	1508	石組井戸	灰色砂
21-002	21Q00353◎	五輪塔水輪	S D1175	VI	B B	1922	溝内	黄褐色粗砂
21-003	21Q00351◎	五輪塔空風輪	S D1175	VI	B C	2001	溝内	黄褐色粗砂
21-004	21Q00352◎	五輪塔水輪			B C	2004		黒褐色砂質土上面
22-001	22Q00300	五輪塔水輪					中州東岸潜流橋上流20m	表面採集
23-001	23Q00300◎	五輪塔地輪	S X1253	IV	A C	2509	集石遺構	
26-001	26Q00352◎	五輪塔空輪			A D	2114		黒褐色土
26-002	26Q00353◎	五輪塔風輪			A D	2114		黒褐色土
27-001	27Q00403◎	相輪			C E	1509		暗灰褐色土
27-002	27Q00401	五輪塔水輪			—	—		表土砂層
27-003	27Q00402	石塔か					芦田川中草戸潜流橋北東隅	表面採集
28-001	28Q00401	五輪塔地輪			B E	1701		褐色砂
29-001	29Q00494	石塔片か(小片)	S D2022	I前~I後	A E	1704	大土坑	灰褐色砂
29-002	29Q00495	石塔片か(小片)	S D2022	I前~I後	A D	2025	大土坑	灰褐色砂質土
29-003	29Q00493	石塔片か(小片)	S D2022	I前~I後	A E	2001	大土坑	暗褐色粘質砂質土
29-004	29Q00552	石塔か			A E	1804	土坑	暗灰色砂質土
29-005	29Q00492	石塔片か	S K2118	II後	A E	2005	土坑	暗褐色砂質土
30-001	30Q00385	石塔片か(小片)	S K2345	I	B F	0801	土坑	暗灰褐色砂質土
30-002	30Q00384	石塔片か(小片)	S D2440	II前	B E	0124	旧南北溝	木質層
31-001	31Q00341	石塔片か	S E1995・1996掘形	II後	B E	1616	井戸	青灰色砂質土
31-002	31Q00386◎	五輪塔火輪	S E2721	IV後	C F	0404	石組井戸	暗青灰色粘質土
31-003	31Q00387◎	五輪塔火輪	S G2740下層	II後	B F	2401	大土坑	暗灰色粘土
31-004	31Q00343	石塔片か(小片)	S G2741	I後	C F	0402	旧池内セクション	暗青灰色粘質土
31-005	31Q00385	五輪塔地輪			—	—		表土
32-001	32Q00379◎	五輪塔火輪	S D585	IV後	C E	1716	東西溝	青灰色粘土
32-002	32Q00362◎	五輪塔空風輪	S D635	IV後	C F	2005	南北溝	暗灰褐色土
32-003	32Q00361◎	五輪塔空風輪	S D1831	V前	C E	2019	南北溝	青灰色粘質砂質土
32-004	32Q00431	石塔片か(小片)	S G2741	I後	C F	0602	大土坑	灰色粘土
32-005	32Q00364	五輪塔空輪	S G2810中層	IV後	C F	0703	池内	暗灰色粘質土
32-006	32Q00375	五輪塔火輪	S G2810中層	IV後	C F	0703	池内	暗灰色粘質土
32-007a	32Q00434	石塔片か(小片)	S G2810中層	IV前	C F	0803	池内	暗灰色粘質砂質土
32-007b	32Q00435	石塔片か(小片)	S G2810中層	IV前	C F	0803	池内	暗灰色粘質砂質土
32-007c	32Q00436	石塔片か(小片)	S G2810中層	IV前	C F	0803	池内	暗灰色粘質砂質土
32-007d	32Q00437	石塔片か(小片)	S G2810中層	IV前	C F	0803	池内	暗灰色粘質砂質土
32-007e	32Q00438	石塔片か(小片)	S G2810中層	IV前	C F	0803	池内	暗灰色粘質砂質土
32-008	32Q00383	五輪塔地輪	S G2810中層	IV後	C F	0905	池内	暗灰色粘質土
32-009	32Q00444	石塔片か	S G2810下層	IV前	C F	0702	池内	褐色砂
32-010a	32Q00445	石塔片か(小片)	S G2810下層	IV前	C F	0702	池内	褐色砂
32-010b	32Q00446	石塔片か(小片)	S G2810下層	IV前	C F	0702	池内	褐色砂
32-010c	32Q00447	石塔片か(小片)	S G2810下層	IV前	C F	0702	池内	褐色砂
32-010d	32Q00448	石塔片か(小片)	S G2810下層	IV前	C F	0702	池内	褐色砂
32-011	32Q00400	石塔片か(小片)	S G2810下層	IV前	C F	0803	池内	暗灰色粘土

調査日	寸法 (cm)	材質	挿図番号	備考
760930	幅36.2 高18.3	流紋岩質凝灰岩	73	上下面柄穴、伊予白石
760930	幅34.8 高16.0	流紋岩質凝灰岩		上下面柄穴、伊予白石
770414	幅32.2 高13.5	流紋岩質凝灰岩		伊予白石
770328	径27.0 高19.0	流紋岩質凝灰岩	75	上下面柄
770328	空輪径14.5 風輪径19.2 高25.7	流紋岩質凝灰岩	74	下面柄、風化顕著
770328	径32.0 高26.6	流紋岩質凝灰岩	71	上面柄、下面割り込み
770920	径34.7 高27.4	流紋岩質凝灰岩	78	上下面柄、伊予白石
771129	幅46.1 高22.9	凝灰角礫岩	8	下面割り込み、天霧石 or 三豊石
781216	径22.9 高19.2	流紋岩質凝灰岩	69	下面柄、伊予白石
781216	径32.6 高20.7	流紋岩質凝灰岩	70	上面柄穴、下面柄、伊予白石
790727?	径9.8 高(14.2)	凝灰角礫岩	72	上下欠、5輪分残
790316	径28.8 高(21.0)	流紋岩質凝灰岩		
790920	長辺(22.8)	凝灰角礫岩		豊島石
800221	幅28.5 高21.5	花崗岩		上面柄穴
810427	--	結晶質石灰岩		
810328	--	結晶質石灰岩		
810410	--	結晶質石灰岩		
801219	長辺(30.1)	凝灰角礫岩		五輪塔地輪か、SK2112か・SE2114、天霧石
801205	長辺(10.6)	結晶質石灰岩		
820312	--	流紋岩質凝灰岩		
820602	--	結晶質石灰岩		
821012	長辺(12.2)	流紋岩質凝灰岩		
821102	幅32.4 高22.4	花崗岩	3	上面柄穴
820914	幅(14.8) 高(6.5)	流紋岩質凝灰岩	1	破片、梵字陰刻
821215	--	流紋岩質凝灰岩		
820323	幅21.4 高(12.3)	凝灰角礫凝灰岩		天霧石
830513	幅23.1 高15.0	花崗岩	4	上下面柄穴
830425	空輪径11.2 風輪径13.5 高20.7	凝灰角礫岩	19	頂部若干欠、下面柄、天霧石
830420?	空輪径16.3 風輪径16.5 高(20.1)	花崗岩	65	頂部・下部欠
831130	--	結晶質石灰岩		
830812	径17.5 高13.7	流紋岩質凝灰岩	9	伊予白石
830812	幅(14.3) 高(12.6)	流紋岩質凝灰岩		破片
830829	--	流紋岩質凝灰岩		
830829	--	流紋岩質凝灰岩		
830829	--	流紋岩質凝灰岩		
830829	--	流紋岩質凝灰岩		
830829	--	流紋岩質凝灰岩		
830817	幅43.5 高(19.5)	凝灰角礫岩		天霧石
830829	長辺(12.0)	流紋岩質凝灰岩		
830829	--	流紋岩質凝灰岩		
830829	--	流紋岩質凝灰岩		
830829	--	流紋岩質凝灰岩		
830829	--	流紋岩質凝灰岩		
830829	--	流紋岩質凝灰岩		

整理番号	資料番号	品種・部位	遺構番号	時期	大地区	小地区	遺構名称	層位
32-012	32Q00371	石塔か	S X2811	IV後	C F	0702	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-013	32Q00407	石塔か	S X2811	IV後	C F	0702	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-014	32Q00392	石塔片か	S X2811	IV後	C F	0702	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-015	32Q00409	石塔片か	S X2811	IV後	C F	0702	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-016a	32Q00393	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0702	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-016b	32Q00394	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0702	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-016c	32Q00396	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0702	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-016d	32Q00398	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0702	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-016e	32Q00408	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0702	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-016f	32Q00449	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0702	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-017	32Q00360	宝篋印塔塔身	S X2811	IV後	C F	0705	礫群中	暗灰色粘土
32-018	32Q00359◎	五輪塔火輪	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-019	32Q00377	五輪塔風輪	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-020	32Q00376	石塔か	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-021	32Q00378	石塔か	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-022	32Q00381	石塔か	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-023	32Q00386	石塔か	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-024	32Q00388	石塔か	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-025	32Q00389	石塔か	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-026	32Q00391	石塔か	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-027	32Q00458	石塔か	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028a	32Q00382	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028b	32Q00399	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028c	32Q00439	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028d	32Q00440	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028e	32Q00441	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028f	32Q00442	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028g	32Q00443	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028h	32Q00453	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028i	32Q00454	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028j	32Q00455	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028k	32Q00456	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028l	32Q00457	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028m	32Q00459	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028n	32Q00460	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028o	32Q00461	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028p	32Q00462	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-028q	32Q00463	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0802	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-029	32Q00390	石塔か	S X2811	IV後	C F	0803	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-030	32Q00450	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0803	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-031	32Q00353◎	五輪塔空風輪	S X2811	IV後	C F	0804	礫群中	暗褐色土
32-032	32Q00385	五輪塔地輪	S X2811	IV後	C F	0804	礫群中	暗褐色土
32-033	32Q00384	五輪塔地輪	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-034	32Q00367	石塔か	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土

調査日	寸法 (cm)	材質	挿図番号	備考
830826	長辺(17.4)	流紋岩質凝灰岩		S X2811-S G2810上層内礫群
830826	長辺(11.1)	流紋岩質凝灰岩		
830826	長辺(10.5)	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		小片多数
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830802	幅16.4 高(19.0)	凝灰角礫岩		一面柄か、天霧石
830826	幅(29.5) 高20.0	流紋岩質凝灰岩	11	上下面柄穴、伊予白石
830826	径(24.2) 高12.7	流紋岩質凝灰岩		下面柄、伊予白石
830826	長辺(33.6)	流紋岩質凝灰岩		
830826	長辺(19.7)	流紋岩質凝灰岩		八栗石 or 火山石
830826	長辺(18.7)	流紋岩質凝灰岩		八栗石 or 火山石
830826	長辺(25.8)	花崗岩		五輪塔地輪の可能性
830826	長辺(21.3)	流紋岩質凝灰岩		
830826	長辺(17.8)	流紋岩質凝灰岩		八栗石 or 火山石
830826	長辺(16.3)	流紋岩質凝灰岩		
830826	長辺(13.9)	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830826	長辺(11.5)	流紋岩質凝灰岩		
830826	--	流紋岩質凝灰岩		
830824	空輪径18.7 風輪径19.3 高24.6	花崗岩	10	頂部若干欠、下面柄
830824	幅25.8 高22.9	流紋岩質凝灰岩		上面柄穴、伊予白石
830826	幅(27.3) 高(12.5)	花崗岩		
830826	長辺(17.1)	流紋岩質凝灰岩		伊予白石

整理番号	資料番号	品種・部位	遺構番号	時期	大地区	小地区	遺構名称	層位
32-035	32Q00369	石塔か	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-036	32Q00380	石塔か	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-037	32Q00428	石塔か	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-038	32Q00466	石塔か	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-039a	32Q00368	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-039b	32Q00397	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-039c	32Q00429	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-039d	32Q00464	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-039e	32Q00465	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-040	32Q00395	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0902	池内北側円礫中	暗褐色土
32-041	32Q00366◎	相輪	S X2811	IV後	C F	0903	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-042	32Q00423	石塔片か	S X2811	IV後	C F	0903	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-043	32Q00426	石塔片か	S X2811	IV後	C F	0903	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-044	32Q00424	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0903	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-045a	32Q00425	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0903	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-045b	32Q00427	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0903	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-046	32Q00373	石塔か	S X2811	IV後	C F	0903	池内北側円礫中	暗褐色土
32-047	32Q00410	石塔片か	S X2811	IV後	C F	0903	池内北側円礫中	暗褐色土
32-048	32Q00411	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	0903	池内北側円礫中	暗褐色土
32-049	32Q00357	五輪塔水輪	S X2811	IV後	C F	0904	礫群中	暗褐色土
32-050	32Q00387◎	宝篋印塔笠	S X2811	IV後	C F	0904	礫群中	暗褐色土
32-051	32Q00372	石塔か	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-052	32Q00374	石塔か	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-053	32Q00406	石塔か	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-054	32Q00412	石塔片か	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-055	32Q00413	石塔片か	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-056	32Q00422	石塔片か	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-057a	32Q00414	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-057b	32Q00415	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-057c	32Q00416	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-057d	32Q00417	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-057e	32Q00418	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-057f	32Q00419	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-057g	32Q00420	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-057h	32Q00421	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	1002	池内北側円礫中	暗灰褐色砂質土
32-058	32Q00430	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	1003	礫群中	
32-059	32Q00433	石塔片か(小片)	S X2811	IV後	C F	--02	池内礫群中北側	暗褐色土
32-060	32Q00363◎	五輪塔水輪	S K2910	III	C F	1603	大土坑	灰色砂質土
32-061	32Q00432	石塔片か(小片)			--	----		表採
33-001	33Q00450	石塔片か	S D635	IV後	C F	1415	南北溝	灰褐色粘質土
33-002	33Q00417	五輪塔地輪	S D635	IV後	C F	1509	南北溝	灰褐色砂質土
33-003	33Q00408◎	一石五輪塔	S D635	IV後	C F	1509	南北溝	灰褐色砂
33-004a	33Q00424	石塔か	S D635	IV後	C F	1510	南北溝	灰褐色粘質土
33-004b	33Q00427	石塔片か(小片)	S D635	IV後	C F	1510	南北溝	灰褐色粘質土

整理番号	資料番号	品種・部位	遺構番号	時期	大地区	小地区	遺構名称	層位
33-005	33Q00451	五輪塔火輪	S D635	IV後	C F	1512	南北溝	青灰色粘質土
33-006	33Q00256	石塔片か(小片)	S D635	IV後	C F	1513	南北溝	灰褐色粘質土
33-007	33Q00453	石塔か	S D635	IV後	C F	1513	南北溝	青灰色粘質土
33-008	33Q00255	石塔片か(小片)	S D635	IV後	C F	1614アゼ		明灰褐色細砂
33-009	33Q00431◎	五輪塔火輪	S D635	IV後	C F	1708	南北溝	暗灰色粘土
33-010	33Q00433	石塔か	S X3040	IV後	C F	1709	石群中	
33-011	33Q00405	一石五輪塔	S X3040	IV後	C F	1709	石群中	
33-012	33Q00422	五輪塔空風輪	S X3040?	IV後	C F	1906	池	黄褐色粗砂
33-013	33Q00435	石塔か	S X3040?	IV後	C F	1906	池	黄褐色粗砂
33-014	33Q00429	五輪塔空風輪	S X3040?	IV後	C F	2006	池	黄褐色粗砂
33-015	33Q00402	五輪塔地輪	S X3041	IV後	C F	1609	石群中	
33-016	33Q00411	五輪塔風輪	S X3041	IV後	C F	1609	石群中	
33-017	33Q00409◎	五輪塔地輪	S X3041	IV後	C F	1609	石群中	
33-018	33Q00406◎	五輪塔地輪	S X3041	IV後	C F	1610	石群中	
33-019	33Q00464◎	一石五輪塔			C F	1608	石塔	
33-020	33Q00426	石塔か	S G640	V前	C F	1613	南北溝	淡黄褐色砂質土
33-021	33Q00407◎	宝篋印塔笠	S G640	V前	C F	1712	池	淡茶色細砂
33-022	33Q00389	五輪塔空風輪	S G640	V前	C F	1809	1707池	青灰褐色粘砂質土
33-023	33Q00390	五輪塔空風輪	S G640	V前	C F	1809	池	暗灰褐色粘砂質土
33-024	33Q00410	五輪塔水輪	S G640	V前	C F	1809	池	淡黄色細砂
33-025	33Q00445	石塔片か	S G640	V前	C F	1812	南北溝	淡黄色細砂
33-026	33Q00432	五輪塔火輪	S G640	V前	C F	1812	1813土坑 1	暗灰色砂質土
33-027	33Q00458◎	五輪塔空風輪	S G640	V前	C F	1812	1813土坑	暗灰色砂質土
33-028	33Q00447	石塔か	S G640	V前	C F	1812	池	淡黄色細砂
33-029	33Q00438◎	五輪塔風輪	S G640?	V前	C F	1612	池	暗灰褐色粘質土
33-030	33Q00399	五輪塔水輪	S X3032	V前	C F	1613	石組	
33-031	33Q00416◎	五輪塔火輪	S X3032?	V前	C F	1612	石組	
33-032	33Q00462	石塔か	S X3032?	V前	C F	1612	石組	
33-033	33Q00428	石塔か	S X3032?	V前	C F	1612	石組	
33-034	33Q00413	石塔片か	S X3032?	V前	C F	1612	石組	
33-035	33Q00420	石塔か	S X3032?	V前	C F	1713?	石組	
33-036	33Q00443	石塔片か	S G2810掘形	III	C F	0806		青灰色砂質土
33-037	33Q00456	五輪塔水輪	S X2811	IV後	C F	0906		青灰色粘質土
33-038	33Q00423	石塔か	S X2811	IV後	C F	0906		青灰色粘質土
33-039	33Q00436	五輪塔火輪	S X2811	IV後	C F	0906		青灰色粘質砂質土
33-040a	33Q00425	石塔片か	S X2811	IV後	C F	0906	池	青灰色粘質土
33-040b	33Q00480	石塔片か	S X2811	IV後	C F	0906	池	青灰色粘質土
33-040c	33Q00481	石塔片か	S X2811	IV後	C F	0906	池	青灰色粘質土
33-040d	33Q00482	石塔片か	S X2811	IV後	C F	0906	池	青灰色粘質土
33-041	33Q01001	五輪塔地輪	S X2811	IV後	C F	0906		青灰色粘質土
33-042	33Q00404◎	相輪	S X2811	IV後	C F	1006		青灰色粘質土
33-043	33Q00448	石塔か	S K3010	II	C F	1213	土坑 1	暗灰色粘質土
33-044	33Q00454	石塔か	S G3050	V前	C F	1217	池	灰褐色砂
33-045	33Q00400	五輪塔地輪	S G3050	V前	C F	1217	池	

調査日	寸法 (cm)	材質	挿図番号	備考
840904	幅(22.9) 高(10.7)	流紋岩質凝灰岩		風化進行
8405--	--	流紋岩質凝灰岩		
840904	長辺(21.8)	凝灰角礫岩		天霧石
841026	--	流紋岩質凝灰岩		
840906	幅23.8 高11.3	凝灰角礫岩	20	上面ほぞ穴、天霧石
840906	長辺(23.1)	凝灰角礫岩		五輪塔地輪の可能性、S X3040-S D635内礫群
840906	幅16.0×15.8 高(34.9)	花崗岩	23	基部
840906	空輪径(12.0) 風輪径(12.7) 高(17.7)	凝灰角礫岩		風化進行、天霧石
840906	長辺(22.5)	花崗岩		
840906	空輪径(10.7) 風輪径(12.0) 高(15.9)	凝灰角礫岩		風化進行、天霧石
840906	幅23.3 高19.0	凝灰角礫岩	26	下面割り込み、S X3041-S D635内礫群、天霧石
840906	径26.5 高(15.2)	凝灰角礫岩		上面柄穴、天霧石
840906	幅25.3 高13.8	凝灰角礫岩	25	天霧石 or 三豊石
840906	幅21.6 高15.0	凝灰角礫岩	24	天霧石
840619	径15.2 高(14.2)	花崗岩	61	空風輪部、S D635(IV期後半) or S G640(V期前半)
840601	長辺(20.0)	凝灰角礫岩?		五輪塔風輪の可能性、S X3032と一連か
840606	幅27.8 高24.3	結晶質石灰岩	62	上下面柄穴
840531	空輪径14.9 風輪径15.7 高21.6	花崗岩		下面柄
840614	空輪径17.3 風輪径18.6 高24.6	花崗岩		下面柄
840615	径22.1 高さ17.6	凝灰角礫岩		天霧石
840604	長辺(10.5)	凝灰角礫岩		
840612	幅23.5 高(12.7)	凝灰角礫岩		上面柄穴、天霧石
840613	空輪径15.0 風輪径16.5 高23.2	花崗岩	59	頂部若干欠、下面柄
840614	長辺(12.8)	流紋岩質凝灰岩		
840906	径24.1 高12.6	流紋岩質凝灰岩	60	上面柄穴、下面柄、伊予白石
840906	径28.3 高(20.9)	流紋岩質凝灰岩		一面(下面か)柄、S X3032-S G640内礫群、伊予白石
840906	幅22.8 高14.1	凝灰角礫岩	64	上面柄穴、天霧石
840906	長辺(31.5)	花崗岩		五輪塔地輪の可能性
840906	長辺(21.1)	流紋岩質凝灰岩		五輪塔火輪の可能性、国分寺石
840906	長辺(11.4)	流紋岩質凝灰岩		
840906	長辺(15.5)	流紋岩質凝灰岩		国分寺石
840528	長辺(14.0)	凝灰角礫岩		
840521	径23.4 高16.5	凝灰角礫岩		上下面やや窪む、天霧石
840519	長辺(11.7)	凝灰角礫岩		五輪塔空風輪の可能性、天霧石
840519	幅(21.6) 高(10.3)	流紋岩質凝灰岩		
840519	長辺(16.2)	凝灰角礫岩		
840519	長辺(11.0)	凝灰角礫岩		
840519	--	凝灰凝灰岩		
840519	--	凝灰角礫岩		
840519	幅25.9 高20.1	流紋岩質凝灰岩		
840520?	覆鉢径14.3 露盤幅16.5 高(20.9)	花崗岩	13	相輪下部、下面柄
840822	長辺(21.1)	流紋岩質凝灰岩		
840525	長辺(31.6)	流紋岩質凝灰岩		
840919	幅(33.5) 高(19.8)	流紋岩質凝灰岩		伊予白石

整理番号	資料番号	品種・部位	遺構番号	時期	大地区	小地区	遺構名称	層位
33-046	33Q00455	五輪塔水輪	S G3050	V前	C F	1316	1217池	
33-047a	33Q00473	石塔か	S X3051	V前	C F	1315	石	
33-047b	33Q00474	石塔か	S X3051	V前	C F	1315	石	
33-047c	33Q00475	石塔か	S X3051	V前	C F	1315	石	
33-048a	33Q00476	石塔か	S X3051	V前	C F	1315	石	
33-048b	33Q00477	石塔か	S X3051	V前	C F	1315	石	
33-048c	33Q00478	石塔か	S X3051	V前	C F	1315	石	
33-048d	33Q00479	石塔か	S X3051	V前	C F	1315	石	
33-049a	33Q00452	石塔か	S X3051	V前	C F	1315	石	
33-049b	33Q00472	石塔か	S X3051	V前	C F	1315	石	
33-050	33Q00463◎	宝篋印塔塔身	S G3060上層	II後～IV後	C F	1122	池	青灰色粘質土
33-051	33Q00434	石塔か	S G3060中層	II後～IV後	C F	0817	池	青灰色粘質砂質土
33-052	33Q00461◎	五輪塔水輪	S G3060中層	II後～IV後	C F	1116	池	青灰色粘質砂質土
33-053	33Q00414	五輪塔火輪	S G3060中層	II後～IV後	C F	1117	池	暗青灰色粘土
33-054	33Q00449	石塔片か	S G3060中層	II後～IV後	C F	1121	池	明褐色砂
33-055	33Q00430	五輪塔火輪	S G3060中層	II後～IV後	C F	1218	池	青灰色粘質砂質土
33-056	33Q00442	石塔か	S G3060中層	II後～IV後	C F	1219	池	明褐色砂
33-057	33Q00444	石塔片か	S G3060中層	II後～IV後	C F	1219	池	暗青灰色粘土
33-058	33Q00460◎	五輪塔空輪	S G3060下層	II後～IV後	C F	0624	池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-059a	33Q00437	石塔片か(小片)	S G3060下層	II後～IV後	C F	0717	大池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-059b	33Q00466	石塔片か(小片)	S G3060下層	II後～IV後	C F	0717	大池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-059c	33Q00467	石塔片か(小片)	S G3060下層	II後～IV後	C F	0717	大池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-059d	33Q00468	石塔片か(小片)	S G3060下層	II後～IV後	C F	0717	大池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-059e	33Q00469	石塔片か(小片)	S G3060下層	II後～IV後	C F	0717	大池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-059f	33Q00470	石塔片か(小片)	S G3060下層	II後～IV後	C F	0717	大池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-059g	33Q00471	石塔片か(小片)	S G3060下層	II後～IV後	C F	0717	大池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-060	33Q00388◎	五輪塔空風輪	S G3060下層	II後～IV後	C F	0723	池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-061	33Q00387◎	五輪塔空輪	S G3060下層	II後～IV後	C F	0820	池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-062	33Q00384◎	五輪塔空風輪	S G3060下層	II後～IV後	C F	0917	西南大池.下層	暗青灰色粘土
33-063	33Q00383	五輪塔空風輪	S G3060下層	II後～IV後	C F	0920	池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-064	33Q00440	石塔か	S G3060下層	II後～IV後	C F	1017	池	黒灰色粘質砂質土
33-065	33Q00465	石塔片か(小片)	S G3060下層	II後～IV後	C F	1017	池	黒灰色粘質砂質土
33-066	33Q00391◎	五輪塔空風輪	S G3060下層	II後～IV後	C F	1021	池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-067	33Q00415	宝篋印塔塔身	S G3060下層	II後～IV後	C F	1118	池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-068	33Q00412	石塔か	S G3060下層	II後～IV後	C F	1118	池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-069	33Q00418	石塔か	S G3060下層	II後～IV後	C F	1118	池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-070	33Q00457	五輪塔水輪	S G3060下層	II後～IV後	C F	1119	池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-071	33Q00403	五輪塔火輪	S G3060下層	II後～IV後	C F	1119	池.下層	黒灰色粘質砂質土
33-072	33Q00401	五輪塔水輪	S X3065	II後～IV後	C F	1015	礫群	青灰色砂質土
33-073	33Q00441	石塔片か	S K3082	II後	C F	1421	1420土坑 1	灰褐色粘質土
33-074	33Q00421	石塔か			C F	--	池	
33-075	33Q00446	石塔片か(小片)			C F	1414		暗褐色土
33-076	33Q00439	五輪塔風輪			C F	--		表土

調査日	寸法 (cm)	材質	挿図番号	備考
841012	径35.1 高27.0	花崗岩		
840605?	長辺(20.0)	流紋岩質凝灰岩		S X3051 - S G3050護岸石組
840605	長辺(14.8)	流紋岩質凝灰岩		
840605	--	流紋岩質凝灰岩		
840605	長辺(12.7)	流紋岩質凝灰岩		
840605	長辺(13.1)	流紋岩質凝灰岩		
840605	--	流紋岩質凝灰岩		
840605	--	流紋岩質凝灰岩		
840605	長辺(22.2)	流紋岩質凝灰岩		
840605	長辺(13.7)	流紋岩質凝灰岩		
840601	幅15.6 高25.3	凝灰角礫岩	57	上下面柄
840808	長辺(18.4)	花崗岩		
840621	径23.7 高19.3	花崗岩	52	四方梵字陰刻、上下面柄
840809	幅22.9 高さ14.9	花崗岩		上下面柄穴
840808	長辺(10.2)	流紋岩質凝灰岩		
840615	幅19.6 高11.8	結晶質石灰岩		上面柄穴
840808	長辺(20.0)	流紋岩質凝灰岩		
840809	長辺(13.4)	流紋岩質凝灰岩		
841106	径20.3 高20.1	流紋岩質凝灰岩	48	四方梵字陰刻、下面柄
841018	--	流紋岩質凝灰岩		
841018	--	流紋岩質凝灰岩		
841018	--	流紋岩質凝灰岩		
841018	--	流紋岩質凝灰岩		
841018	--	流紋岩質凝灰岩		
841018	--	流紋岩質凝灰岩		
841018	--	流紋岩質凝灰岩		
841102	空輪径14.4 風輪径16.1 高21.7	花崗岩	46	頂部若干欠、下面柄
841105	径23.5 高16.2	流紋岩質凝灰岩	49	四方梵字陰刻
841026	空輪径12.7 風輪径13.7 高21.1	凝灰角礫岩	47	頂部若干欠、下面柄、天霧石
841105	空輪径16.2 風輪径-- 高(21.0)	凝灰角礫岩		天霧石
841106	長辺(18.4)	流紋岩質凝灰岩		
841106	--	流紋岩質凝灰岩		
841102	空輪径13.8 風輪径15.5 高21.4	花崗岩	45	頂部若干欠、下面柄、四方梵字陰刻
841102	幅28.1 高39.9	流紋岩質凝灰岩		上下面柄、伊予白石
841102	長辺(32.2)	花崗岩		
841102	長辺(21.8)	流紋岩質凝灰岩		
841102	径(26.9) 高(24.8)	流紋岩質凝灰岩		伊予白石
841102	幅25.5 高16.5	花崗岩	51	上面柄穴
840614	径27.0 高20.2	花崗岩	58	風化進行、S X3065 - S G3060内礫群、層位は中層
840829	長辺(26.3)	角礫凝灰岩		
840816	長辺(16.3)	流紋岩質凝灰岩		S G3060の可能性あり、層位は不明、八栗石or火山石
840619	--	流紋岩質凝灰岩		
840730	径17.6 高(8.2)	流紋岩質凝灰岩		上面柄穴

整理番号	資料番号	品種・部位	遺構番号	時期	大地区	小地区	遺構名称	層位
34-001	34Q00351◎	五輪塔火輪	S D3130	IV後	C F	0314	東西溝	灰色粘土
34-002	34Q00307	石塔片か(小片)	S A3135	IV後	B F	1107	東西柵布掘内	暗褐色砂質土
34-003	34Q00353	五輪塔空風輪			C F	0502		表土砂層
34-004	34Q00355	五輪塔火輪			--	--		表土
35-001	35Q00381	五輪塔火輪			A G		潜流橋下	表採
36-001	36Q00357◎	五輪塔火輪	S G3060中層	II後～IV後	C G	0203		中層
36-002	36Q00356◎	五輪塔地輪	S G3060中層	II後～IV後	C G	0306		中層
36-003	36Q00358◎	五輪塔水輪	S G3060中層	II後～IV後	C G	0306		中層
36-004	36Q00359◎	五輪塔水輪	S G3060中層	II後～IV後	C G	0306		中層
36-005	36Q00351	五輪塔水輪	S G3060中層	II後～IV後	C G	0307		中層
36-006	36Q00352	五輪塔空風輪	S G3420	V前	B G	2515?	0215砂池	砂層
36-007	36Q00355	五輪塔火輪	S K3425	IV	C G	0809	土坑	黒灰色粘質砂質土
36-008	36Q00301	石塔か			B G	S4ラインW210～217 トレンチ内		
36-009	36Q00353	五輪塔水輪			--	--	東側エグレ	表土砂層
36-009	36Q00354	五輪塔水輪			--	--	東側エグレ	表土砂層
42-001	42Q00363◎	五輪塔火輪			--	--	溝	上層
44-001	44Q00281◎	五輪塔火輪	S E4880	V前	B A	2512	石井側	
44-002	44Q00282◎	五輪塔地輪	S E4880	V前	B A	2512	石井側	
45-001	45Q00280	五輪塔空風輪	S X4909	IV	B Y	0523	北西池	石組内

調査日	寸法 (cm)	材質	挿図番号	備考
850306	幅26.0 高15.2	花崗岩	6	上面柄穴
851018	--	凝灰岩		
841029	空輪径14.5 風輪径14.8 高20.8	花崗岩		下面柄
841113	幅23.8 高11.9	凝灰角礫岩		上面柄穴、風化進行
860107	幅(24.8) 高(14.5)	流紋岩質凝灰岩		上面柄穴
870220	幅35.2 高19.0	流紋岩質凝灰岩	50	四方梵字陰刻、上下面柄穴、伊予白石
870220	幅21.6 高14.9	凝灰角礫岩	56	下面削り込み、天霧石
870220	径43.3 高32.2	流紋岩質凝灰岩	53	上面柄、伊予白石
870220	径34.4 高27.8	流紋岩質凝灰岩	54	上下面柄、伊予白石
870220	径30.7 高24.5	花崗岩	55	上下面柄
870324	空輪径13.6 風輪径18.4 高(20.9)	花崗岩		下面柄か
861105	幅33.1 高(10.6)	流紋岩質凝灰岩		下面柄穴、伊予白石
870121	長辺(11.4)	花崗岩		
860909	径22.8 高14.6	凝灰角礫岩		上面やや窪む、天霧石
860909	径22.9 高16.8	花崗岩		上面柄
890912?	幅26.5 高16.8	花崗岩	77	上下面柄穴
900516	幅24.3 高15.9	花崗岩	66	井戸側石材、上面柄穴
900516	幅21.5 高13.9	凝灰角礫岩	67	井戸側石材、天霧石
910225	空輪径-- 風輪径17.4 高14.9	花崗岩	7	空輪一部残、下面柄、SX4909-S G4900護岸石組

※ 広島県立歴史博物館が編集・発行している「草戸千軒町遺跡調査研究報告」の既刊分は次のとおりである。

- 報告1 『草戸千軒町遺跡出土の下駄』1997年
- 報告2 『草戸千軒町遺跡出土の滑石製石鍋』1998年
- 報告3 『草戸木簡集成1』1999年
- 報告4 『草戸木簡集成2』2000年
- 報告5 『草戸千軒町遺跡出土の下駄2』2001年
- 報告6 『草戸木簡集成3』2004年
- 報告7 『重要文化財 草戸千軒町遺跡出土品 指定品目録』2005年
- 報告8 『草戸千軒町遺跡出土品 保存処理の状況と課題』2008年
- 報告9 『草戸千軒町遺跡出土の木製形代』2009年
- 報告10 『草戸千軒町遺跡漆器関係資料1－椀皿類の概要－』2011年
- 報告11 『備後渡辺氏に関する基礎研究』2013年
- 報告12 『草戸千軒町遺跡漆器関係資料2
－出土漆器等の科学分析と食漆器の諸問題－』2017年
- 報告13 『草戸千軒町遺跡出土の土師質土器1－I期の椀・杯・皿類－』2018年
- 報告14 『草戸千軒町遺跡の出土銭』2021年

版 函



61 (33-019)



48 (33-058)



60 (33-029)



22 (33-003)



49 (33-061)



76 (16-001)



47 (33-062)



45 (33-066)



74 (21-003)



10 (32-031)



64 (33-031)



77 (42-001)



3 (31-002)



11 (32-018)



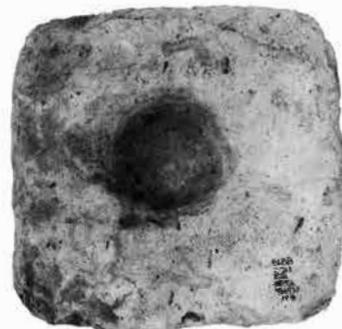
36~39
(13-011~014)



50 (36-011)



73 (19-011)





52 (33-052)



71 (21-004)



24 (33-018)



56 (36-002)



54 (36-004)



53 (36-003)



79 (18-002)



12 (32-041)



13 (32-042)



72 (27-001)



14 (32-050)



62 (33-021)



43 (13-020)



41 (13-010)



42 (13-007)



57 (33-050)



44 (13-019)

Kusado Sengen-cho Site, a Medieval Port Town in Hiroshima

Historical and Archaeological Analyses, Volume XV

Stone stupas

Hiroshima Prefectural Museum of History

2024

CONTENTS

Preface

	Page
Chapter I : Introduction	1
1. Research into the Kusado Sengen-cho Site	1
2. Past reports	2
Chapter II : Archaeological Contexts of excavated Stone stupas	3
1. Phase I	3
2. Phase II	5
3. Phase III	6
4. Phase IV	6
5. Early stage of Phase V	17
6. Not in Features	18
Chapter III: Characteristics of Stone stupas	21
1. Shapes	21
2. Areas	25
3. Wooden stupas	27
Chapter IV: Conclusions	31
Supplementary table: List of Stone stupas	33

研究報告抄録

ふりがな	くさどせんげんちょういせきしゅつどのせきとうるい
書名	草戸千軒町遺跡出土の石塔類
シリーズ名	草戸千軒町遺跡調査研究報告
シリーズ番号	15
編著者名	尾崎光伸・下津間康夫
編集機関	広島県立歴史博物館
所在地	〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4-1 TEL.084-931-2513
発行機関	広島県立歴史博物館
発行年月日	西暦 2024年3月1日

令和6年(2024)2月20日 印刷

令和6年(2024)3月1日 発行

草戸千軒町遺跡調査研究報告15

草戸千軒町遺跡出土の石塔類

編集・発行 広島県立歴史博物館

〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4-1

TEL.084-931-2513

印刷 アート印刷株式会社

〒720-0077 広島県福山市南本庄一丁目10-38

TEL.084-924-5588

